北海道産クレジット活用促進パンフレット（改訂第２版）



環境省

北海道地方環境事務所

HOKKAIDO
CARBON CREDIT

北海道をカーボン･オフセット先進地域に

カーボン・オフセットとは、日常生活や経済活動において避けることができないCO_2等の温室効果ガスの排出について、まずできるだけ排出量が減るよう削減努力を行い、どうしても排出される温室効果ガスについて、排出量に見合った温室効果ガスの削減活動に投資すること等により、排出される温室効果ガスを埋め合わせるという考え方です。

環境省では、平成20年11月から、国内の温室効果ガス排出削減・吸収プロジェクトにより実現された排出削減・吸収量をカーボン・オフセットに用いることができるクレジット（J-VER）として認証するオフセット・クレジット（J-VER）制度を運営していましたが、平成25年度からは、国内クレジット制度との発展的な統合により、新たにJ-クレジット制度がスタートしました。

雄大な大自然が広がるここ北海道は、森林バイオマスを始めとする多様な資源が豊富に存在し、クレジット創出のためのポテンシャルが高い地域と言えます。それを示すように、北海道におけるJ-VER及びJ-クレジットのプロジェクト登録数は35件、クレジット認証量は105,000 t-CO_2を超え、全国に占める割合も大きく、先進地域のひとつとなっています。

また、創出された北海道産のクレジットは、創出地域の特徴とうまく結び付き、魅力的なクレジットとして、多くの事業者の方々に活用していただいており、全国のモデルとなるようなカーボン・オフセットの事例がいくつも生まれています。

本パンフレットは、北海道内のクレジット創出プロジェクトや北海道産クレジットの活用事例を中心にまとめたものです。カーボン・オフセットにご関心をお持ちの方々に広くご覧いただき、北海道におけるカーボン・オフセットの更なる発展のため、ご活用くださいますと幸いです。

平成27年3月
環境省北海道地方環境事務所

目次

北海道におけるJ-クレジット創出プロジェクト（J-VERを含む）

【森林吸収系】（P3～P14）

・北海道4町連携による間伐促進型森林づくり事業
・流氷の森クレジット　～紋別市有林間伐促進型森づくり事業～
・「三井物産の森」　北海道間伐促進吸収プロジェクト
・北海道　王子製紙間伐促進プロジェクト
・北海道広尾町有林における森林吸収プロジェクト
・上士幌町有林間伐促進プロジェクト（次世代に引き継ぐ豊かな森林づくりプロジェクト）
・北海道津別町による町有林内における間伐推進を図りながらの森林ＣＯ２吸収促進事業
・南組グループ森林吸収源事業（ウォータージェットＣＯ２削減プロジェクト）
・標津町防風林育成事業　―サケのふるさとの森林づくりプロジェクト―
・ニッタ株式会社豊頃町間伐促進プロジェクト
・士幌町有林間伐促進による森林づくりプロジェクト
・南ふらの町有林間伐送信によるＣＯ２吸収促進事業
・釧路湿原におけるサン・クロレラ社有シラカバ林の森林吸収プロジェクト
・石狩市市有林間伐促進プロジェクト
・道有林エコビジネス支援プロジェクト　～「キキタの森」の間伐促進プロジェクト～
・北海道・穂別山林の森づくりプロジェクト
・東京大学北海道演習林間伐促進プロジェクト（東京大学サステイナブルキャンパスプロジェクト）
・オホーツク知床オシンコシンの森プロジェクト
・北海道浦河町有林間伐促進吸収プロジェクト　～優駿を育む森づくり～
・北海道・尺別山林の森プロジェクト
・地域のくらしを守る格子状防風林における間伐促進プロジェクト
・リベレステの森No．８　日高の森育成プロジェクト

【排出削減系】（P15～19）

・五味温泉等森林バイオマスエネルギー活用事業
・滝上町ホテル渓谷木質バイオマス活用プロジェクト
・足寄町森林バイオマスエネルギー活用事業
・美幌町峠の湯びほろ木質バイオマスボイラー活用プロジェクト（美幌町低炭素なまちづくりプロジェクト）
・下川町役場周辺の地域熱供給システムバイオマスエネルギー活用プロジェクト
・北海道コープさっぽろによるBDFを用いたCO２削減宅配プロジェクト
・合同会社北海道新エネルギー事業組合
　ヒートポンプを利用したエコアグリハウスにおける温室効果ガス排出削減事業
・士別市生ごみ等のバイオマス資源堆肥化による温室効果ガス排出削減プロジェクト

※この他、以下のプロジェクトが取り組まれています。（すでにクレジット創出の取組が終了しているものも含みます）

・当別ふれあいバスによる廃食用油由来バイオディーゼル燃料活用プロジェクト
・十勝地域における昭和工業(株)BDF活用プロジェクト
　～環境モデル都市帯広市を中心とした十勝の低炭素社会への貢献プロジェクト～
・北清企業バイオディーゼル燃料活用プロジェクト
・日本出版販売株式会社上士幌CO2吸収プロジェクト
・道路工業(株)社有林北海道今金町における間伐促進型森林吸収プロジェクト

北海道内における国内クレジット制度申請プロジェクト

【事例紹介】（P21、P22）

・株式会社阿寒グランドホテル　温泉熱を利用した温熱供給システム導入事業
・日本アスパラガス株式会社　飲料製造工程における熱回収型ヒートポンプ導入事業
・オシキリ食品株式会社　廃熱回収再利用システム導入事業
・株式会社サトウ　バイオマスボイラーの余剰蒸気を活用した小型蒸気発電機導入事業

【申請プロジェクト一覧】（P23～P29）

北海道産クレジットを活用したカーボン・オフセット事例

【事例紹介】（P31）

・【小樽ゆき物語 第2章 Otaru Snow Story】(65日間開催)のカーボン・オフセット
・りんごのお菓子で日本一を目指す「ほんだ」の看板商品「林檎ロマン」のカーボン・オフセット

【北海道産クレジットを活用した事例一覧】（P32）

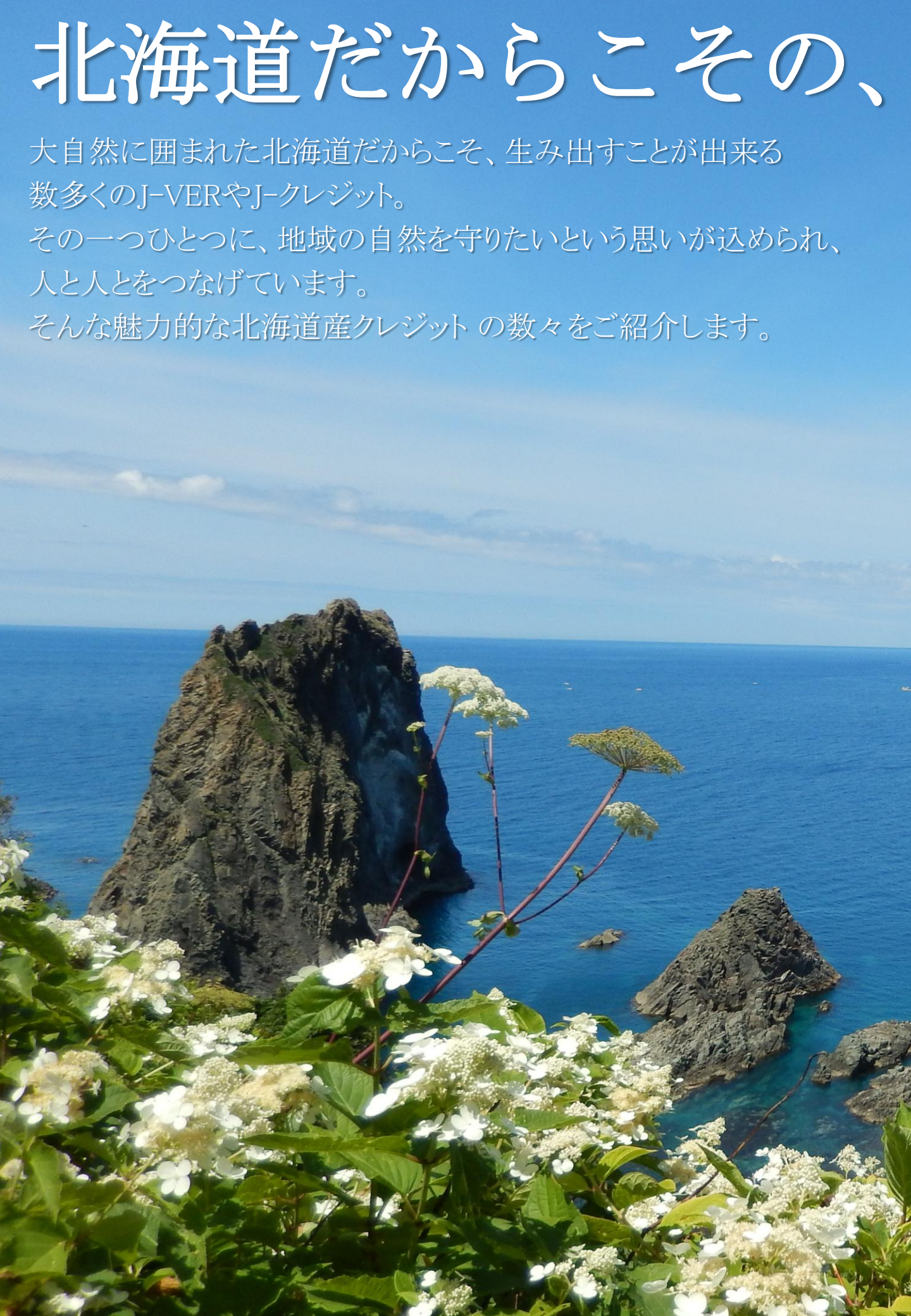
・平成23～25年度　地方発カーボン・オフセット認証取得支援事業採択案件

北海道のカーボン・オフセットをさらに進めるために

・各種情報（P34～P36）

北海道だからこその、

大自然に囲まれた北海道だからこそ、生み出すことが出来る
数多くのJ-VERやJ-クレジット。
その一つひとつに、地域の自然を守りたいという思いが込められ、
人と人とをつなげています。
そんな魅力的な北海道産クレジットの数々をご紹介します。



魅力。

J-クレジットの魅力・特長　I

「日本国内での“顔の見える”取り組みを応援」

J-クレジット制度は日本の国内における温室効果ガスの排出削減活動や、温室効果ガスを吸収する森林管理活動をクレジット化の対象としている制度です。どのような方々が、どのような思いで取り組みを進めているのかが理解しやすく、「応援実感・貢献実感が高い」との評価をいただいています。

森林吸収系

J-VER
吸収

北海道森林バイオマス吸収量活用推進協議会

登録番号：JVR0002

～北海道4町連携による間伐促進型森林づくり事業 ～

「森林バイオマス吸収量活用推進協議会」は、北海道の4町（足寄町、下川町、滝上町、美幌町）で構成し、共通の地域資源である森林を適切に管理し、森林の健全化を確保しながら、二酸化炭素吸収量の増大を目指しています。

本プロジェクトにより、持続可能な森林経営の実現を図るとともに、地域の活性化やさらなる低炭素社会の実現に向けた、自治体主体による取組みの展開を進めていきます。

プロジェクトの実施場所	北海道足寄町、下川町、滝上町、美幌町
吸収量	（2008.4～2013.3） 26,811 t-CO2
在庫量	22,276 t-CO2（2015年2月）
1t-CO2あたりの希望単価	要相談

北海道4町協議会（足寄町、下川町、滝上町、美幌町）では、継続的に森林を守り育てていくことを基本に、森林資源の新たな価値の創造を目指した取組みを進めております。

本プロジェクトにより、適正な管理による森林保全はもとより、地域の活性化、自然環境の再生、更なる低炭素社会の構築など多岐にわたる取り組みの展開を行っていきます。

こうしたことから、本J-VERを通じ、各企業様における排出量をオフセットするためにご利用いただくことで、CSR活動や企業イメージの向上が期待されます。


足寄町有林


下川町有林


滝上町有林


美幌町有林

間伐の実施



- 適正な森林管理による二酸化炭素吸収量の増大
- 持続可能な森林経営の実現
- 地域の活性化

■担当者連絡先
樋口　知志　TEL：01655-4-2511
EMAIL：syoukou@town.shimokawa.hokkaido.jp
URL：http://hokkaido-tree.main.jp/4rest/

J-クレジット
吸収

紋別市

登録番号：JVR0013

流氷の森クレジット～紋別市有林間伐促進型森づくり事業～

「流氷の森クレジット」と命名された紋別市の森林クレジットは、森から海へ連環する林業・農業・水産業、地域産業全体の活性化に繋げるため、『環境と交流のまちづくりパートナーズ協定』締結を視野に入れ、地球温暖化対策として取り組む都市部企業・自治体にクレジットを活用して貰うことで、人とひとの交流を拡げ、山村と都市との社会的連携を図っていきたいと考えております。

プロジェクトの実施場所	北海道紋別市
吸収量（予測）	年間　1,001　t-CO2
在庫量	3,220 t-CO2（2015年2月時点）
1t-CO2あたりの希望単価	10,000　円以上



流氷の森クレジットとは

紋別市が所有する200haの市有林において、間伐を実施し整備することによって、健全な森林育成を図るとともに、市有林でのCO2吸収の量を維持することで生まれたクレジットです。

地球温暖化の影響によりオホーツク海の流氷は年々減少化傾向にあり、海洋環境や動植物への影響が心配されているほか、オホーツク海屈指の漁業や観光などへの影響も危惧されているところです。

オホーツクの流氷を守るためにも、本プロジェクトにおける森林整備は大きな意味を持っています。

購入者に提供可能なサービス等

購入者との連携による事業の展開　等
（購入者と要相談）

■担当者連絡先
紋別市役所産業部農政林務課　担当：野村　TEL：0158-24-2111
マイクライメイトジャパン株式会社　担当：南、平野　TEL：03-6228-3616
HP：http://www.mombetsu.jp/　http://www.myclimate.jp

J-VER
吸収

三井物産フォレスト株式会社

登録番号：JVR0044

「三井物産の森」北海道　間伐促進吸収プロジェクト

三井物産フォレスト（株）がプロジェクト代表事業者として、三井物産（株）社有林,沙流山林及び初山別山林の山林経営において、適切な森林管理を行う一環で間伐を促進し、CO2吸収量の増大を図ります。

プロジェクトの実施場所	北海道平取町及び初山別村
吸収量（予測）	年間　2,122t-CO2
在庫量	5,684 t-CO2（認証番号0044001） 5,857 t-CO2（認証番号0044002） （2014年12月時点）
1t-CO2あたりの希望単価	要相談



三井物産フォレスト（株）がプロジェクト代表事業者として、三井物産㈱社有林, 沙流山林及び初山別山林の山林経営において、適切な森林管理を行う一環で間伐を促進し、CO2吸収量の増大を図ります。

沙流山林におきましては、保有後100年が経過し、林業を通じて森林の整備、木材の生産を行ってきました。

クレジットをご購入いただくと、引き続き森林の整備（間伐等）にそれを役立てます。

適切な保育を行うことで健全な森林となり、水源の涵養や山地災害の防止はもちろん、生物多様性の保全など、森林の持つ多面的機能を高度発揮することに繋がり、更なる林業の活性化に貢献することができます。

■担当者連絡先：吉田正樹　TEL：03-3281-1701
EMAIL：m.yoshida@mitsui-forest.co.jp

J-クレジット
吸収

王子ホールディングス株式会社

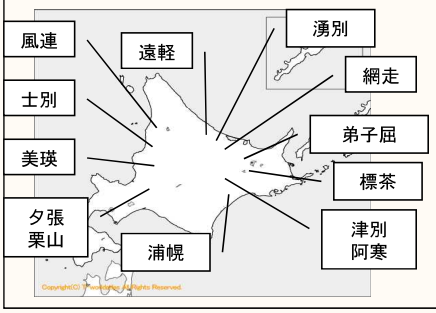
～北海道　王子製紙間伐促進プロジェクト～

登録番号：JVR0049・JVR0159

王子グループは、日本全国に広がる700ヶ所、19万haの社有林（民間最大）を、維持・管理しています。木を伐り、次世代の木を育てていくことで、二酸化炭素の吸収促進につなげています。

プロジェクトの実施場所	北海道
吸収量	2010年度　3596　t-CO2（発行済） 2011年度　10,969　t-CO2（発行済）
在庫量	14,000 t-CO2(2015年2月時点)
1t-CO2あたりの希望単価	ー

当プロジェクトは、道東、道央、道北に位置する遠軽、湧別、網走、弟子屈、標茶、津別、阿寒、浦幌、夕張、栗山、美瑛、風連、標津地域の山林が対象となっています。各山林は主にトドマツ、カラマツで構成されており、場所によっては林道からエゾフクロウなど希少な動物に出会うこともあります。






カラマツ林





担当者連絡先：
王子グリーンリソース株式会社　資源環境ビジネス本部
担当：千葉　　tel:03-3563-4392

J-VER
吸収

北海道広尾町

～北海道広尾町有林における森林吸収プロジェクト～

登録番号：JVR0052

広尾町は、北海道十勝管内の最南端に位置し、東は北海道有数の漁業資源を有する太平洋、西は日高山脈の山並みがそびえ立ち、その山系に源を持つ4本の河川が海に注ぎ、豊かな自然を生かした漁業を中心に農林業を基幹産業として発展してきました。このように産業と密接に関わる広尾町の自然を維持するためにも森林整備は大きな意味を持っています。広尾町町有林の内、07年度～12年度の間に間伐が実施される約200haの町有林（カラマツ・トドマツ・ストローブマツ）をプロジェクトの対象地とし、安定的・持続的に二酸化炭素を吸収する森づくりをおこないます。

プロジェクトの実施場所	広尾町有林
吸収量（予測）	年間　956 t-CO2
在庫量	1,925 t-CO2（2015年2月時点）
1t-CO2あたりの希望単価	10,000　円

広尾町はノルウェー・オスロ市から国外で唯一「サンタランド」として認定されています。サンタランドは、「愛と平和　感謝と奉仕」の理念を多くの皆さんに発信しており、大型商業施設へのクリスマスツリーの提供や、サンタメールなど多種多様な取組みを行っています。
サンタの森づくりプロジェクトによるクレジットを使用することで、サンタクロースとクリスマスという、夢と心のぬくもりをイメージできるキーワードとならないでしょうか。
このキーワードを利用することで、CSR、企業イメージの向上に役立てることと思います。


広尾町有林


サンタランド


広尾町

■担当者連絡先
水産商工観光課サンタランド係　沖田一美
TEL: 01558-2-0177
EMAIL: s-shokokanko@town.hiroo.lg.jp

J-VER 吸収

北海道上士幌町

登録番号：JVR0054

上士幌町間伐促進プロジェクト（次世代に引き継ぐ豊かな森林づくりプロジェクト）

本町は、北海道の十勝平野北部、大雪山国立公園の東山麓に位置し、総面積695.87㎢のうち76%が森林です。この東大雪の山々を水源とする音更川は、町の中央部を流れ、緑豊かな森林や大地そして多くの動植物を育み、美しい四季と雄大な自然をもたらしています。この自然環境を次世代に引き継ぐために、平成16年12月に「上士幌町環境基本条例」を制定しました。また、平成18年12月には「上士幌町環境基本計画」を策定し、この中で、地域として地球環境の保全に貢献することとし、CO2の貯蔵・吸収源としての森林の維持・整備の推進を明記しています。

町民の財産である町有林で適時適切な間伐を実施し、本制度に取り組むことで、地球温暖化対策への貢献、次世代に引き継ぐ良好な自然環境の保全、森林の公益的機能の維持・増進、地域林業の活性化等を図ります。

プロジェクトの実施場所	北海道河東郡上士幌町
吸収量	計 2,277t-CO2（2008～2014年発行）
在庫量	2,127 t-CO2（2015年1月時点）
1t-CO2あたりの希望単価	10,000　円

森林の間伐・整備により、森林環境が保全されます。クレジット購入による資金は、既存の森林を保全するだけではなく、新たな森林を生むことに努め、また、森林や河川をはじめとする自然環境を次世代に引き継ぐための環境配慮型事業や環境学習などを実施します。

森林を守ること、次世代の健康や笑顔を守ることは、企業にとって、イメージの向上、社会貢献につながるものと考えています。



■担当者連絡先
北海道上士幌町企画財政課企画担当　TEL:01564-2-2111
EMAIL：kikakuzaiseika@town.kamishihoro.hokkaido.jp

J-VER 吸収

津別町

登録番号：JVR0064

北海道津別町による町有林内における間伐促進を図りながらの森林CO2の吸収促進事業

本町は、北海道の東部オホーツク総合振興局管内の内陸部に位置し、総面積716.60k㎡のうち**約86%が森林**です。

昭和57年、日本で初めて**「愛林のまち」**を宣言しました。それは、日本林業の発展を願って森林資源の持続的な保全・活用を目指す誓いになります。町が保有する1,360haの森林は、全てSGEC森林認証を取得し、持続可能な森林管理を通じて、自然環境の保全を図りながら、地域における循環型社会の形成を目指しています。

本プロジェクトの主たる目的は北海道津別町有林において実施される森林施業によって、健全な森林育成を図るとともに、持続的なCO2吸収の量を維持していくことです。

さらに、森林吸収量をクレジットとして売却し、得られた資金を森林の管理費用とし、地域活性化にも活用します。

プロジェクトの実施場所	北海道網走郡津別町
吸収量（予測）	2008年4月～2013年3月 4,693 t-CO2（発行済）
在庫量	3,442 t-CO2（2015年1月時点）
1t-CO2あたりの希望単価	10,000　円（税別）

PRポイント

本町では、認証を受けたオフセット・クレジット（J－VER）の販売を通じて、道内外の企業や団体等の皆様と協同した森林づくりに取り組み、豊かな森林の育成に励むことから、CSR活動や企業イメージの向上に貢献できると考えています。

H26年度からは、本町の森林づくりへの貢献に敬意を表し、購入者へ「感謝状」を贈呈しています。

購入者に提供可能なサービス等

- **森林づくり体験（植樹・育樹等の林業体験）**　※体験場所を用意
- 触れ合う～森林ｾﾗﾋﾟｰ、ｸﾘﾝｿｳ群生地、木工体験等
- 自然感動～津別峠（雲海）、ﾁﾐｹｯﾌﾟ湖、ﾐｽﾞﾅﾗの巨木等
- 癒し～天然温泉（ﾗﾝﾌﾟの宿森つべつ）、ﾁﾐｹｯﾌﾟﾎﾃﾙ等
- エコ見学～木質ﾍﾟﾚｯﾄ製造施設、堆肥製造施設等



J-VER対象カラマツ人工林



津別町ｲﾒｰｼﾞｷｬﾗｸﾀｰ『まる太くん』



森林づくり体験　候補地



林業体験（植樹）風景

■担当者連絡先：津別町役場
産業振興課再生可能エネルギー推進グループ
兼平　昌明　　TEL　0152-76-2151
E-Mail：kanehira-masaaki@town.tsubetsu.lg.jp

J-VER
吸収

株式会社 南　　組

登録番号：JVR0066

南組グループ森林吸収源事業（ウォータージェットCO２削減プロジェクト）

本プロジェクトの目的は社有林において間伐・下刈り等により、健全な森林育成を図るとともに、温室効果ガスの更なる吸収を図ること。また、森林吸収量をクレジットとして売買することで得られた資金を活用し、更なる森林育成活動に取り組むことです。

浦河町は山と海に隣接している地域であり、農業はもとより漁業が盛んな地域です。魚類・貝類、そして『日高昆布』でも知られている昆布の産地です。弊社社有林もこうした地形のなかにあります。社有林では主にシラカンバ・トドマツを育成しております。間伐を中心とした森林整備を適切に行うことで、持続可能な森林吸収量を確保します。

プロジェクトを進めることにより、山の保水性を高め、森・川・海の健全な繋がりを保つことで豊かな海を作ることに寄与します。

プロジェクトの実施場所	北海道浦河郡浦河町
吸収量	2008年4月～2011年1月 943 t-CO2（認証済） 2013年度　693 t-CO2（認証済）
在庫量	1,499 t-CO2 （2015年2月時点）
1t-CO2あたりの希望単価	―



弊社グループは昭和三年創業で、創業当時は林業（造材）を中心に活動しておりました。現在では港湾土木、一般土木、生コンクリート製造業、木工業を主体に地域に根ざした企業活動しておりますが、本業である建設業・製造業において環境配慮は大きな命題であり、工場及び工事現場から排出されるCO2はなかなか抑制することが出来ないのが現実です。そこで弊社グループ全体で思案した結果、国家的課題である地球温暖化対策として『森林づくり活動による二酸化炭素吸収』に取組むことを決定しました。





■担当者連絡先
管理課　成田　悟
TEL：0146-36-2311　EMAIL:narita@minamigumi.co.jp

J-VER
吸収

北海道標津町

登録番号：JVR0067

標津町防風林育成事業 ～サケのふるさとの森林づくりプロジェクト～

カーボンオフセットで活用されるJ-VERクレジットを、北海道知床半島への入り口にあたる標津町の森林管理から産み出しました。標津町の農地を守る防風林や、サケのふるさとの川を守る河畔林などの森林を、健全に育成するために標津町・標津町森林組合が実施した間伐事業から得られた森林によるCO2吸収クレジットです。

本プロジェクトは環境省オフセット・クレジット（J-VER）の森林経営活動によるCO2吸収量の増大(間伐促進型プロジェクト)となります。町有防風林であるカラマツ、アカエゾマツ、トドマツ人工林で、2007年～2009年に間伐を行った135haにおけるCO2吸収量の増大について、J-VERクレジット発行を行いました。皆様の環境CSRのツールとして、本J-VERクレジットの活用をご検討下さい。



プロジェクトの実施場所	北海道標津郡標津町
吸収量（予測）	―
在庫量	1,266 t-CO2（2015年2月時点）
1t-CO2あたりの希望単価	16,200　円～

1　標津町の森林づくりの特徴

標津町は、北海道大学農学研究院との連携協定締結など研究機関と連携して調査事業を展開し、それに基づく独自の森林管理計画を持つ、全国でも数少ない先進自治体です。

また、平成24年6月からは根釧東部管理署と保全協定を締結し防風林や河畔林等の連携した整備と保全にも取り組んでいます。

標津町は、北部に世界遺産指定された知床連山の山並み、中央部には北海道遺産に指定された「根釧台地の格子状防風林」と豊かな自然環境に恵まれ、全国有数の水揚げを誇るサケのふるさとの町です。防風林の育成は、防風機能を高め町民の生活や農地を守るとともに、ヒグマの移動の場や野鳥の棲家など野生動物保護にもつながります。また防風林は河畔林機能も有し、サケのふるさとの森林として河川環境、サケやそれら取り巻く生態系を守る生物多様性保全へとつながります。

■担当者連絡先：北海道標津町　加藤
TEL: 0153-82-2131　EMAIL: shinrinkumiai@shibetsutown.jp

2　購入者に提供可能なサービス

今回のクレジット(J－VER)販売で得られた資金は、サケのふるさとの森林（知床の森）の間伐や植栽経費として使わせていただきます。このようにサケのふるさとの森林の維持・造成に使用することで、CSR,企業イメージの向上にお役に立てると考えます。

またプロジェクト実施地等において、植林体験や間伐体験など購入者の皆様の社員研修の場として利用していただくことができます。


サケのふるさとの防風林と知床連山の山並み


町民との協働の植樹祭


大学との連携した調査事業

J-VER 吸収

ニッタ株式会社

ニッタ株式会社豊頃町間伐促進プロジェクト

登録番号：JVR0072

ニッタ株式会社は、1906年に北海道十勝地方に進出し、以来100年以上にわたり、植林・間伐等の森林整備事業を行ってまいりました。現在、約6,700haの山林を保有し、森林の整備及び維持管理を行っていますが、木材市況の低迷等から施業は十分とはいえない状態です。本プロジェクトにより、自然と人との共存を目指し、豊かな大地、水と緑を次世代に残すため、温室効果ガスの更なる吸収を図ります。

プロジェクトの実施場所	北海道中川郡
吸収量（予測）	2008年　632 t-CO2 2009年 1,264 t-CO2 2010年 2,012 t-CO2 2011年 1,971 t-CO2 2012年 1,892 t-CO2
在庫量	4,471 t-CO2(2015年2月時点)
1t-CO2あたりの希望単価	3,000 ～ 10,000 円


カラマツの育苗


間伐後の森林

現在から将来に伝えるべき、森林の価値

ニッタが、十勝の森林と出会って100年。ニッタは、森林の持つ貴重な価値を、将来に引き継いでいくよう取り組んでいます。

森林の持つ公益的機能には、温室効果ガスの吸収だけではなく、水源かん養・土砂流出防止・保健休養・生物多様性保全など様々な機能があります。

今回創出されるクレジットをご活用いただくことは、これらの機能を更に向上させることにつながります。


施業現場


JAPTA-026

認証書

ニッタ株式会社　殿

貴殿の管理する北海道中川郡豊頃町ほかに所在の社有林を『緑の循環』認証会議（SGEC）の認証森林として認証します。

SGEC

平成20年12月20日

『緑の循環』認証会議

■担当者連絡先
ニッタ株式会社経営管理グループ　懸上(カケガミ)
TEL: 06-6563-1217　EMAIL: CSR@nitta.co.jp

J-VER 吸収

北海道河東郡士幌町

～士幌町有林間伐促進による森林づくりプロジェクト～

登録番号：JVR0074

本町は、広大な十勝平野の北部、大雪山国立公園の東山麓に位置し、総面積259.13㎢のうち約21%が森林です。先人たちが幾多の山火事からまもり育ててきた東ヌプカウシヌプリ、その山麓に広がる士幌高原を有し、音更川、士幌川、居辺川が緑豊かな大地を流れています。この自然環境を次世代に引き継ぐために、平成19年3月に「士幌町環境基本条例」を制定し、条例で定めた基本理念を実現するために、平成21年3月に「士幌町環境基本計画」を策定しました。また、さらに環境に対する取り組みをより積極的に発展させていくことを目的とした、「士幌町環境宣言」を策定しました。

町の貴重な財産である町有林で適時適切な間伐を実施し、本制度に取り組むことで、森林の公益的機能の維持・増進、地域林業の活性化、地球温暖化対策への貢献、次代を担う子どもたちへの豊かな自然環境の引継ぎ等を図るものです。

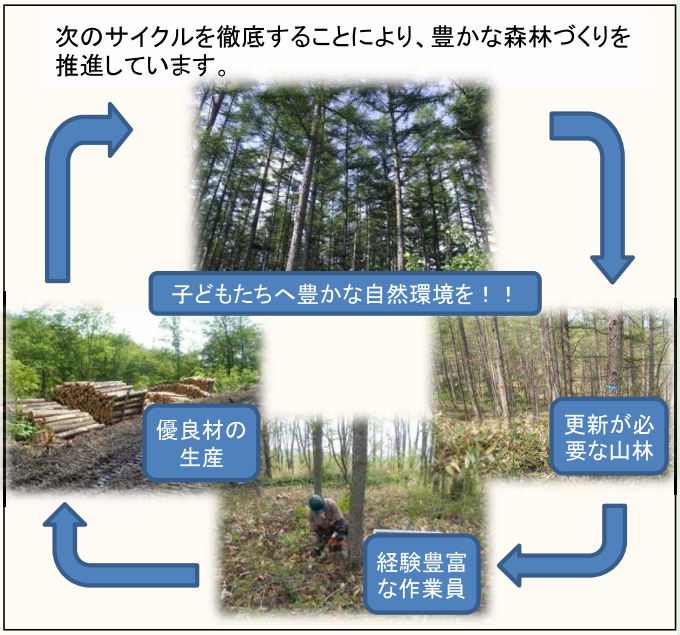
プロジェクトの実施場所	北海道河東郡士幌町
吸収量（予測）	1,397 t-CO2（発行済） （内バッファー分　41 t-CO2）
在庫量	1,356 t-CO2（2015年3月時点）
1t-CO2あたりの希望単価	10,000　円（税抜）

北海道十勝地方は、日本でも有数のカラマツ生産地であり、とりわけ士幌町においても、人工林の約9割をカラマツが占めています。

町の貴重な財産であるカラマツを、地域の計画に即して継続的に間伐等を実施することは、「森林の公益的機能の維持・増進」、「地球温暖化防止の対策」、「次代を担う子どもたちへの豊かな自然環境の引継ぎ」に貢献しています。

その間伐によるCO2吸収量をオフセットに利用いただければ、CSR、企業イメージの向上に役立てていただけるものと自負しております。

次のサイクルを徹底することにより、豊かな森林づくりを推進しています。



■担当者連絡先
産業振興課 産業振興G　林務担当
TEL: 01564-5-5213
E-MAIL：sansingroup1@shihoro.jp

J-VER 吸収

南富良野町長　池部　彰

南ふらの町有林間伐促進によるCO2吸収促進事業

登録番号：JVR0167

北海道のほぼ中心に位置する南富良野町は、北海道の母なる川の一水系がここから生まれる、森林地帯に囲まれた風土の中にあります。歴史的にみて林業で栄えた町です。このプロジェクトは、適切な森林整備事業を行うことで吸収されるCO2由来のカーボンオフセット料金を、地域の持続的な森林整備事業にフィードバックすることで、さらなるCO2吸収効果を地域の森林資源に付与します。

プロジェクトの実施場所	南富良野町
吸収量（予測）	年間　　458 t-CO2
在庫量	1,564t-CO2（2015年2月時点）
1t-CO2あたりの希望単価	10,000　円（税抜）

豊かな森林資源を有する南富良野町では、地域の森林生態系サービスを賢明に利活用することが、地域コミュニティーの持続に資するという考えを基に『山づくりは町づくり』というコンセプトを掲げています。森林生態系サービスにはCO2の吸収もありますが、南富良野町ではそれだけではありません。地域の自然史には日本最大の淡水魚であるイトウや、最大の陸棲哺乳類であるヒグマ、世界最大のフクロウ：シマフクロウが生息する環境があり、アウトドア観光も盛んです。このプロジェクトは南富良野町の豊な自然環境を背景にした森林産業『協奏曲』のひとつのパートであり、クレジット購入者にとってのベネフィットはCO2排出量の削減に留まりません。南富良野町との繋がりを持って頂くことで、地球環境への想像力を刺激する潜在力を秘めています。



■担当者連絡先：南富良野町役場　産業課課長補佐　小室
TEL: 0167-52-2178
EMAIL: komuro@town.minamifurano.hokkaido.jp

J-VER 吸収

株式会社サン・クロレラ

釧路湿原におけるサン・クロレラ社有シラカバ林の森林吸収プロジェクト

登録番号：JVR0169

株式会社サン・クロレラが特別協賛を務めるゴルフトーナメント「サン・クロレラクラシック（2011年7月28日～31日）」において、大会運営で排出されたCO2のカーボン・オフセットをいたしました。本取組では、運営者の移動、会場で使用する電力、廃棄物運搬、廃棄物処理などから排出されるCO2排出量をカーボン・オフセットの範囲とし、サン・クロレラが所有・管理する北海道釧路のシラカバの森の間伐プロジェクトによって創出したCO2排出権を使用。また、本取組は環境省基準によるカーボン・オフセット認証を取得しました。

プロジェクトの実施場所	北海道釧路郡釧路町
吸収量（予測）	330 t-CO2/年
在庫量	251 t-CO2（2015年1月時点）
1t-CO2あたりの希望単価	要相談

プロジェクト概要

【目的】
サン・クロレラでは、地球と日本の環境を守り、未来の子どもたちに引き継いでいくため、気候変動キャンペーン“Fun to Share”に賛同し、CO2などの温室効果ガス削減に向けた具体的な行動を全社的に取り組んでいます。

【内容】
北海道釧路湿原を一望する土地でシラカバの森を育て、間伐をして適正に森の健康を管理し、温室効果ガスの吸収率を継続的に増大させる取組を行なっております。この森の間伐プロジェクトによって創出予定のCO2排出権を使用して2011年、2012年のサン・クロレラクラッシックゴルフトーナメントにおいてカーボン・オフセットを行ないました。



■ 担当者連絡先　　(株)サン・クロレラ　総務部　倉持
TEL075-288-3000　m-kuramochi@sunchlorella.co.jp

J-クレジット
吸収

石狩市

石狩市市有林間伐促進プロジェクト

登録番号：JVR0173

サブテーマ：～ニシンが群来(くき)る豊かな海を未来に繋ぐ森づくり～

間伐により新たに発生する二酸化炭素量を、クレジット化し販売することで、森林施業経費財源を確保し、継続した森林整備を行なおうとしています。一方海岸ではニシンの群来(産卵)も確認出来るようになったことから、豊かな森林等を造成することで、藻場となる豊かな海岸環境の維持拡大を図り、地域の活性化を図ろうとしているものであります。

プロジェクトの実施場所	北海道石狩市内一円
吸収量（予測）	年間　530　t-CO2
在庫量	1,496　t-CO2（2015年2月時点）
1t-CO2あたりの希望単価	10,800　円

豊かな森林が海岸の崖まで続く石狩湾北部の沿岸は、かつてニシンにより大いに繁栄しましたが、昭和29年を境にその姿を消し、幻の魚となりました。しかし、近年ニシンが少しずつ浜に戻り、一部では「群来(くき)」(産卵)が見られるようになりました。群来(くき)に欠かせない、豊かな藻場を育てるためには、森林を育て落ち葉などの有機物が海に流れ込む環境作りが大切で、これまで取り組んで来た間伐など多くの施業が実ったものと考えています。

企業活動などから排出されるCO2の埋め合わせに、当市のクレジットを使用することは、森林の整備にとどまることなく、森林・河川・海という広範にわたる環境改善に貢献することとなり、これまでの森林吸収系クレジットとは一味違った企業イメージの向上に役立てることが出来るのではないでしょうか。

クレジット購入者は、石狩市クレジットのロゴマークを一定期間使用することが出来ます。



■担当者連絡先　：
環境市民部環境政策課環境政策担当　鍋谷、佐々木
TEL:0133-72-3698　EMAIL:seisaku@city.ishikari.hokkaido.jp

J-クレジット
吸収

北海道

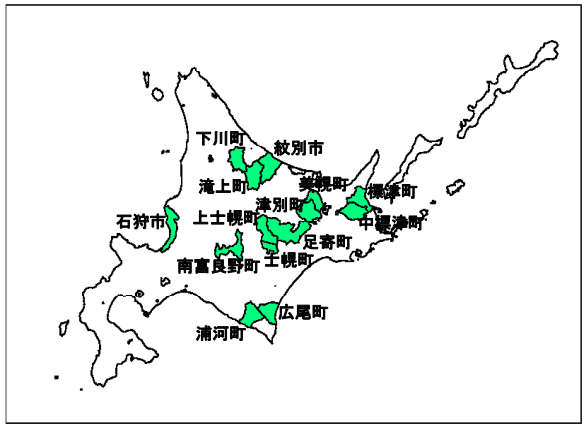
道有林森林吸収エコビジネス支援プロジェクト～「キキタの森」の間伐促進プロジェクト～

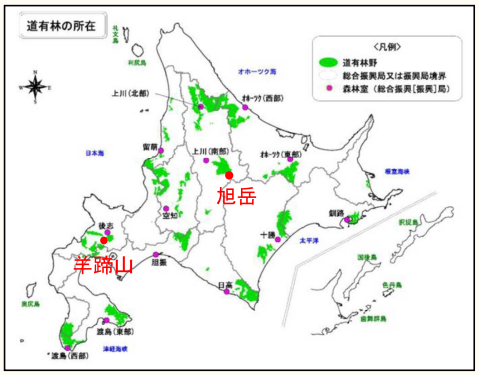
登録番号：JRM0183

「キキタの森」の間伐促進プロジェクトは、羊蹄山周辺と旭岳周辺の道有林にあるトドマツやアカエゾマツ人工林の二酸化炭素吸収量のうち、J-クレジットの認証を受けた発行クレジットを環境活動に取り組む企業や団体等に販売し、北海道の森林づくりに活かす取組です。

プロジェクトの実施場所	羊蹄山及び旭岳周辺の道有林
吸収量（予測）	年間　2,722　t-CO2
在庫量	4,048t-CO2（2015年2月時点）
1t-CO2あたりの希望単価	15,000　円（税抜）

道有林クレジットは、地域と連携した森林づくりを進めるため、原則として道内14の市町村が保有する森林吸収系クレジットと同時に販売しています。（販売割合：1/2ずつ）







道有林の
アイドルキャラクター
クマゲラの「キキタ」





■担当者連絡先
北海道水産林務部森林環境局道有林課道有林管理グループ
TEL：011-204-5519
EMAIL：suirin.doyurinkg@pref.hokkaido.lg.jp

J-クレジット
吸収

かたばみ興業株式会社

北海道・穂別山林の森づくりプロジェクト

登録番号：JVR0186

本プロジェクトは、北海道勇払郡むかわ町穂別を実施サイトとし、カラマツの間伐及び広葉樹林の間伐（広葉樹改良）を行なうことにより森林の吸収量を高め、魅力ある森林整備を行なうものです。

プロジェクトの実施場所	北海道勇払郡むかわ町穂別
吸収量（予測）	年間　395　t-CO2
在庫量	1,940　t-CO2（2015年2月時点）
1t-CO2あたりの希望単価	6,500　円

かたばみ興業は、日本各地で約7000haの森林の管理・施業を行なっている。材価が低迷し従来行ってきた森林施業の継続が難しくなっている中、CO2の吸収増大、生物多様性に適した環境づくり、森林体験や癒しなどの環境価値を創造・活用するような森林施業を目指しています。

本プロジェクトは、温室効果ガスの吸収力を高めることはもとより、北海道の生物多様性などにも寄与する美しい森づくりを行うとともに、現地での雇用の維持にも貢献するものです。



■担当者連絡先
馬場　　TEL：03-5413-8111
EMAIL：baba@katabami.co.jp

J-VER
吸収

国立大学法人　東京大学

東京大学北海道演習林間伐推進プロジェクト（東京大学サステイナブルキャンパスプロジェクト）

登録番号：JVR0190

東京大学は自らの行動によって、ｻｽﾃｲﾅﾌﾞﾙな社会の実現に向けた道筋を作りたいと考え「東大ｻｽﾃｲﾅﾌﾞﾙｷｬﾝﾊﾟｽ（TSCP）」を全学ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄとして立ち上げています。活動の一環として、大学が保有する演習林での間伐推進ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄを進めています。

プロジェクトの実施場所	東京大学 北海道演習林
吸収量（予測）	年間　192　t-CO2
在庫量	現在のところ販売予定はございません。
1t-CO2あたりの希望単価	

東京大学演習林は、森林・林業の実践的研究・教育の場として全国7ヶ所に合計約32,000haの地方演習林を擁している他、森林生態圏管理学協力大講座として大学院学生の指導・教育にもあたっています。

東京大学演習林のうち要件を満たす3演習林と2研究所で、間伐促進型ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄを先導的に進めることで、同様の演習林を保有する国立大学への波及効果を含め、制度全般の普及・拡大に繋げたいと考えています。

千葉演習林での取り組みをﾊﾟｲﾛｯﾄﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄとして申請し、大学演習林として初めて登録されました。順次残りの演習林・研究所のﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ化を進めており、北海道演習林が3番目に登録されました。









東京大学
北海道演習林

■担当者連絡先：迫田一昭
03-5841-0500　sakoda.kazuaki@mail.u-tokyo.ac.jp

J-VER
吸収

NPOサニーサイド・オホーツク
オホーツク知床オシンコシンの森プロジェクト

登録番号：JVR0197

世界自然遺産・知床の森は、民有林というコートによって守られています。私たちのプロジェクトは、知床の民有林経営をJ-VERによって活性化することで森林の荒廃を防ぎ、これによって知床世界自然遺産の保全、知床地域全体の低炭素化をすすめるものです。

プロジェクトの実施場所	北海道斜里町
吸収量（予測）	年間　606　t-CO2
在庫量	2,087　t-CO2（2015年3月時点）
1t-CO2あたりの希望単価	要相談

世界自然遺産の森と地続きになった民有林の荒廃は、自然遺産にも影響を及ぼしかねません。知床半島の民有林の多くは、開拓時代以来このまちに住む地域住民の所有するものですが、その森林経営は厳しく、多くが身銭を切って森を維持しているのが実情で、厳しさのあまり森林放棄などの例も少なくありません。
こうした中、森林経営の活性によって知床の森を守りたいと、知床の森林所有者自らが立ち上がりました。現在、ほとんどのJ-VERプロジェクトが市町村林、企業林のプロジェクトになっている中で、知床在住の森林所有者有志が集まり、組織した唯一の森林オーナーによるプロジェクトです。J-VERを通して広く都市との交流を求めています。



■担当者連絡先：NPO法人　サニーサイド・オホーツク
（〒099-4141　斜里郡斜里町豊倉41　美咲興業内）
tel:0152-26-7333　Mail:npo.o.k@sunnysideok.org

J-VER
吸収

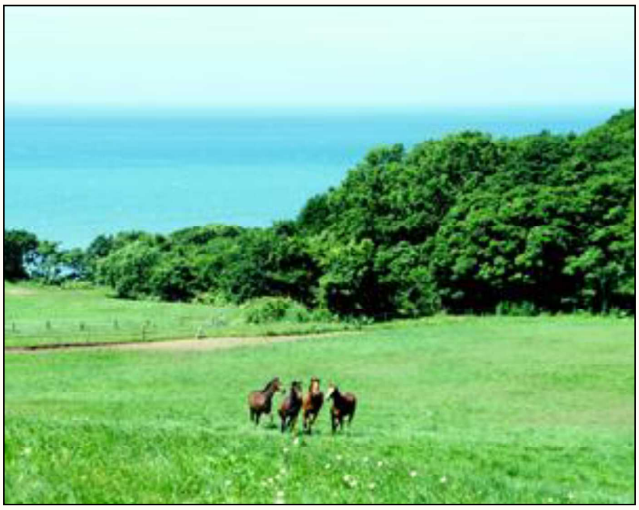
北海道浦河町
北海道浦河町有林間伐促進吸収プロジェクト～優駿を育む森づくり～

登録番号：JVR0229

浦河町は、北海道日高振興局管内南部に位置し、雄大な日高山脈を背に広大な太平洋に面し、海洋性気候の影響で夏は涼しく、冬は温暖なため、豊かで住みよい自然環境に恵まれています。この気候と豊かな自然環境を活用し、サラブレッド（競走馬）の生産・育成が盛んに行われ、五冠馬シンザンをはじめ幾多の名馬を輩出しています。
豊かな自然環境を維持するためには、本町の総面積の約80%を占める森林の経営活動を活発に行う必要があります。
このため、J-クレジット制度を活用し、浦河町有林の持続的な管理・経営の推進により、森林のもっている様々な公益的機能を総合的かつ高度に発揮し、豊かな自然環境を守るとともに、優れたサラブレッド（優駿）の生産・育成を図ります。

プロジェクトの実施場所	浦河町有林
吸収量（予測）	年間　520　t-CO2
在庫量	1,741　t-CO2（2015年4月時点）
1t-CO2あたりの希望単価	10,800　円

数多くの名馬を輩出した「優駿の里」浦河町。
競馬には、夢とロマンがあふれています。
主役である競走馬の生産・育成には豊かな自然が必要です。
また、競走馬だけではなく、サケや昆布などの水産物、夏イチゴなどの農産物も森林の持っている様々な公益的機能による豊かな自然環境からの贈り物と思っています。
今回、取得したクレジットをご利用いただき、浦河町とともに環境を守り育てていきませんか。



■担当者連絡先　浦河町農林課　柳谷　健一
TEL：0146-26-9017
EMAIL：nourin@town.urakawa.hokkaido.jp

J-クレジット
吸収

かたばみ興業株式会社

登録番号：JVR0244

北海道・尺別山林の森づくりプロジェクト

本プロジェクトは、北海道尺別地区の山林を実施サイトとし、カラマツ・トドマツの間伐及び広葉樹林の間伐（広葉樹改良）を行うことにより森林の吸収量を高め、魅力ある森林整備を行うものです。

プロジェクトの実施場所	北海道釧路市音別町
吸収量（予測）	年間　約 600　t-CO2
在庫量	3,318　t-CO2（2015年2月時点）
1t-CO2あたりの希望単価	6,500　円









かたばみ興業は創業以来、山林の保全・維持管理を行うことで美しい森の持続的利用に努めてきました。国内の山林荒廃が問題となる昨今、緑の保続という使命を誠実に果たし、次の世代に繋ぐ、「100年の森づくり」を進めています。現在かたばみ興業が管理する山林は、13道県、約7,000ヘクタールにまで広がっています。

尺別の森では、一般向けの林業基礎講座を開催しています。枝打ちや苗植えなどを専門家の指導の下で体験することにより、林業のしごとを肌で感じ、森林が果たしている大きな役割を考える場を提供します。

■担当者連絡先
馬場　　TEL：03-5413-8111
EMAIL：baba@katabami.co.jp

J-クレジット
吸収

北海道中標津町

登録番号：JC0010

地域のくらしを守る格子状防風林における間伐促進プロジェクト

～持続可能な循環型社会　環境首都なかしべつを目指して～

中標津町の生活道路と農地を守る格子状防風林の適切な間伐の実施によって森林の健全育成を図り、森林のCO2吸収量を高め、地球温暖化防止に寄与します。また、知床世界自然遺産に近隣する地域として、ヒグマやシマフクロウなどの希少野生生物の生息環境保全を図ることで、生物多様性の維持にも寄与することを目的としています。

プロジェクトの実施場所	北海道標津郡中標津町
吸収量（予測）	年間　672　t-CO2
在庫量	572　t-CO2（2015年2月時点）
1t-CO2あたりの希望単価	10,000　円（消費税別）

中標津町は北海道東部の根室地域に位置する酪農業を主産業とする町です。中標津空港を有することで知床世界自然遺産観光の玄関ともなっており、地域の交通の要所となっています。

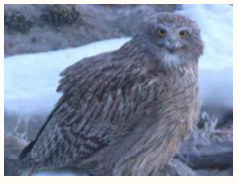
本プロジェクトの対象である中標津町町有林は、根釧台地に広がる農地を守る格子状防風林（北海道遺産に認定）の一部を形成し、地域の産業を守る森林であり、また生活道路を守る防風林でもあります。格子状防風林は、暴風雪災害の生活道路に対する影響を緩和する上で欠かせない地域のインフラです。

また、スペースシャトルからもハッキリと確認できる事で知られる格子状防風林は、森林が持つ多面的機能の発揮のみならず、グレート・グリーン・グリット（3G）【偉大なる緑の格子】として、地域に存在し続け、都市部と農村部の緩衝帯（バッファーゾーン）としても重要な役割を果たしています。中標津町は適切な都市規模としてコンパクトな街づくりを進め、環境負荷の少ない持続可能な循環型社会を目指しています。

本町ではクレジット販売で得られた資金を、更なる間伐や植栽費用として有効利用し、森林整備を加速化します。そして、格子状防風林を初めとする地域森林の維持・更新が、生物多様性や地球環境の改善に繋がると考えています。平成25年度より新制度として生まれ変わった『J-クレジット制度』において、森林経営活動【方法論】としては全国初となる本町のクレジットの活用をご検討下さい。


町花　エゾリンドウ


北海道遺産【根釧台地の格子状防風林】


シマフクロウ



■担当者連絡先　　中標津町経済部農林課林務係
TEL：0153-73-3111　EMAIL：rinmu@nakashibetsu.jp

J-クレジット
吸収

リベレステ株式会社

リベレステの森No.8　日高の森　育成プロジェクト

登録番号：JC0037

リベレステ（株）では新ひだか町に約49ha、様似町に約160haの社有林を有しており、本事業では、これら社有林において間伐、造林事業を実施して森林を適切に管理することにより、CO2の吸収量を増大させることを目的としています。

プロジェクトの実施場所	北海道日高郡新ひだか町及び 様似郡様似町
削減量（予測）	年間　219　t-CO2
在庫量	213t-CO2（2015年2月時点）
1t-CO2あたりの希望単価	15,000　円（税抜）

地球環境問題への関心が益々高まる中、地球温暖化防止に向けて様々な分野での取り組みが活発化しています。地球温暖化はすでに我々の身近な環境問題です。

リベレステ㈱は、「新ひだか町三石歌笛」、「新ひだか町静内西川」、「様似郡様似町」に森林を所有しています。苗、挿穂などの造林材料を林地に定着させて次代の森林をつくり、地球温暖化の防止、水環境の保全、生物多様性の確保に貢献して参ります。

環境貢献に取り組む企業に、このクレジットを販売することにより、新たな森林整備にかかる費用の一部を補っていきます。森づくりに活かされ、継続的に森林を守り育てていくことを基本に、森林資源の新たな価値の創造を目指した取り組みを進めて参ります。



■担当者連絡先　リベレステ株式会社　東京支店　木村
TEL：03-3242-1849　EMAIL：kimura@riberesute.co.jp

排出削減系

J-VER
削減

北海道森林バイオマス吸収量活用推進協議会

登録番号：JVR0007

～五味温泉等森林バイオマスエネルギー活動事業 ～

低炭素社会の構築を目指し、下川町内の公共施設の中で最も化石燃料を消費している公共の温泉「五味温泉」に木質ボイラーを導入（北海道初）し、二酸化炭素削減を図るとともに地球温暖化対策の普及啓発に寄与します。また、下川町幼児センターにおいて、木質ボイラーを導入することにより、二酸化炭素の削減効果だけでなく、環境に優しい地域の資源で子供たちを育む森林源循環型社会の形成に寄与します。本プロジェクトにより、持続可能な森林経営の実現を図るとともに、地域の活性化やさらなる低炭素社会の実現に向けた、自治体主体による取組の展開を進めていきます。

プロジェクトの実施場所	北海道上川郡下川町
削減量	（2008.4～2011.7） 715 t-CO2
在庫量	479 t-CO2（2015年2月）
1t-CO2あたりの希望単価	要相談



林地残材、
林道支障木など

下川町有林



木質原料施設で
木くず加工







五味温泉、幼児センターへ熱供給

北海道4町協議会（足寄町、下川町、滝上町、美幌町）では、継続的に森林を守り育てていくことを基本に、森林資源の新たな価値の創造を目指した取組を進めております。

本プロジェクトで使用する木質くずは、下川町内製材工場の製材製造工程において発生する端材を活用しており、森林資源を有効活用しながら二酸化炭素の削減を行っています。こうしたことから、本J-VERを通じ、各企業様における排出量をオフセットするためにご利用いただくことで、CSR活動や企業イメージの向上が期待されます。



【下川町の概要】

北海道の北部に位置した農林業を基幹産業とした町です。人口は　約3,700人。町の面積の約9割が森林となっており、自然豊かな町です。平成20年（2008年）には、国の「環境モデル都市」として認定を受けており、豊かな森林資源を活用して、低炭素社会構築に向け、様々な取組を行っています。町の代表的なイベントである「アイスキャンドルフェスティバル」では、町中に3,000個のキャンドルが灯り、幻想的な雰囲気を演出しており、町の冬の風物詩となっています。

■担当者連絡先
樋口　知志　TEL：01655-4-2511
EMAIL：syoukou@town.shimokawa.hokkaido.jp
URL：http://hokkaido-tree.main.jp/4rest/

J-VER 削減

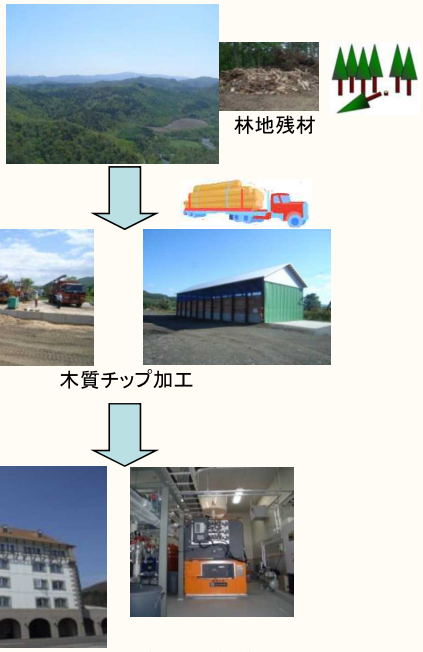
北海道森林バイオマス吸収量活用推進協議会

登録番号：JVR0008

～滝上町ホテル渓谷木質バイオマス活用プロジェクト～

滝上町内の森林未利用資源（林地残材）から形成されたチップを燃料とするチップボイラーを、公共施設である「たきのうえホテル渓谷」に導入しました。冬期間の暖房として利用し、二酸化炭素削減を図るとともに地球温暖化対策の普及啓発に寄与します。 本プロジェクトにより、持続可能な森林経営の実現を図るとともに、地域の活性化やさらなる低炭素社会の実現に向けた、自治体主体による取組の展開を進めていきます。

プロジェクトの実施場所	北海道紋別郡滝上町
削減量	（2009.2～2010.12） 491 t-CO2
在庫量	352 t-CO2（2015年2月）
1t-CO2あたりの希望単価	要相談



北海道4町協議会（足寄町、下川町、滝上町、美幌町）では、継続的に森林を守り育てていくことを基本に、森林資源の新たな価値の創造を目指した取組を進めております。
本プロジェクトで使用する木質くずは、滝上町内で発生する林地残材（追い上げ材など）を活用しており、森林資源を有効活用しながら二酸化炭素の削減を行っています。こうしたことから、本J-VERを通じ、各企業様における排出量をオフセットするためにご利用いただくことで、CSR活動や企業イメージの向上が期待されます。

【滝上町の概要】



北海道北東部に位置し、農林業を基幹産業とした町です。人口は 約2,800人で、町の三方が山林に囲まれた自然豊かな町で、町の自然やそこに生きる人々を童話の舞台ととらえ、「童話村・たきのうえ」をキャッチフレーズに町づくりを進めています。
また、町の丘を美しく彩るシバザクラは、広く知られており、満開時には多くの観光客が鑑賞に訪れています。

■担当者連絡先
川原田 耕基 TEL：0158-29-2111
EMAIL：rinsei@town.takinoue.hokkaido.jp
URL：http://hokkaido-tree.main.jp/4rest/

J-VER 削減

北海道森林バイオマス吸収量活用推進協議会

登録番号：JVR0017

～足寄町森林バイオマスエネルギー活用事業～

足寄町の森林資源（カラマツ）の未利用資源から形成された木質ペレットを燃料とするペレットボイラーを、役場庁舎及び子どもセンターに導入しました。冬期間の暖房として利用し、二酸化炭素削減を図るとともに地球温暖化対策の普及啓発に寄与します。
本プロジェクトにより、持続可能な森林経営の実現を図るとともに、地域の活性化やさらなる低炭素社会の実現に向けた、自治体主体による取組の展開を進めていきます。

プロジェクトの実施場所	北海道足寄郡足寄町
削減量	（2008.04～2009.12） 997 t-CO2
在庫量	779 t-CO2（2015年2月）
1t-CO2あたりの希望単価	要相談



北海道4町協議会（足寄町、下川町、滝上町、美幌町）では、継続的に森林を守り育てていくことを基本に、森林資源の新たな価値の創造を目指した取組を進めております。
本プロジェクトで使用する木質ペレットは、足寄町内におけるカラマツ伐採時に発生する林地残材を活用しており、森林資源を有効活用しながら二酸化炭素の削減を行っています。こうしたことから、本J-VERを通じ、各企業様における排出量をオフセットするためにご利用いただくことで、CSR活動や企業イメージの向上が期待されます。

【足寄町の概要】



北海道東部の内陸部に位置した農業を基幹産業とした町です。人口は、約7,900人。
その面積は約1,400k㎡と、2006年1月までは日本一広い面積でありました。現在でも、市を除く町村の中では日本一広い面積となっています。
足寄町の東に位置する螺湾（らわん）地区に自生する「ラワンブキ」は、「日本一大きなフキ」として全国的にも有名です。

■担当者連絡先
村石 靖 TEL：0156-25-2141
EMAIL：energy@town.ashoro.hokkaido.jp
URL：http://hokkaido-tree.main.jp/4rest/

J-VER 削減

北海道森林バイオマス吸収量活用推進協議会

登録番号：JVR0024

～美幌町峠の湯びほろ木質バイオマスボイラー活用プロジェクト(美幌町低炭素なまちづくりプロジェクト)～

美幌町内の森林未利用資源（林地残材）から形成されたチップを燃料とするチップボイラーを、町内公共施設の中で最も化石燃料を消費している公共の温泉「峠の湯びほろ」に導入しました。冬期間の暖房として利用し、二酸化炭素削減を図るとともに地球温暖化対策の普及啓発に寄与します。 本プロジェクトにより、持続可能な森林経営の実現を図るとともに、地域の活性化やさらなる低炭素社会の実現に向けた、自治体主体による取組の展開を進めていきます。

プロジェクトの実施場所	北海道網走郡美幌町
削減量	（2011.4～2012.11） 330 t-CO2
在庫量	290 t-CO2(2015年2月）
1t-CO2あたりの希望単価	要相談

北海道4町協議会（足寄町、下川町、滝上町、美幌町）では、継続的に森林を守り育てていくことを基本に、森林資源の新たな価値の創造を目指した取組を進めております。

本プロジェクトで使用する木質くずは、美幌町内で発生する林地残材を活用しており、森林資源を有効活用しながら二酸化炭素の削減を行っています。

こうしたことから、本J-VERを通じ、各企業様における排出量をオフセットするためにご利用いただくことで、CSR活動や企業イメージの向上が期待されます。



【美幌町の概要】

北海道東部に位置し、農業を基幹産業とした町です。人口は21,000人。
町域の大半は 緩かな傾斜地または平坦地で険しい山はなく、豊かな森林資源を有しており、地域の木材を地域で消費することができる町内循環型森林経営を目指し、様々な取組を行っています。美幌峠からは、町域を一望することができ、雄大な景観を呈しています。







峠の湯びほろへ熱供給

■担当者連絡先
後藤秀人　TEL: 0152-73-1111
EMAIL: koutrinm@town.bihoro.hokkaido.jp

J-VER 削減

北海道森林バイオマス吸収量活用推進協議会

登録番号：JVR0077

～下川町役場周辺地域熱供給システムバイオマスエネルギー活用プロジェクト ～

低炭素社会の構築を目指し、役場庁舎、消防署、公民館、総合福祉センターにおいて、一つの木質ボイラーから熱を供給する地域熱供給システム施設を導入しました。冬期間の暖房として利用し、二酸化炭素削減を図るとともに地球温暖化対策の普及啓発に寄与します。 本プロジェクトにより、持続可能な森林経営の実現を図るとともに、地域の活性化やさらなる低炭素社会の実現に向けた、自治体主体による取組の展開を進めていきます。

プロジェクトの実施場所	北海道上川郡下川町
削減量	（2010.11～2013.3） 437 t-CO2
在庫量	387 t-CO2（2015年2月）
1t-CO2あたりの希望単価	要相談

北海道4町協議会（足寄町、下川町、滝上町、美幌町）では、継続的に森林を守り育てていくことを基本に、森林資源の新たな価値の創造を目指した取組みを進めております。

本プロジェクトで使用する木質くずは、下川町内で発生する林地残材、林道支障木等をはじめ、河川支障木等(剪定木、風倒木) なども活用しており、森林資源を有効活用しながら二酸化炭素の削減を行っています。 こうしたことから、本J-VERを通じ、企業や自治体の廃棄物処理に係る排出をオフセットするために使用することで、CSR、企業イメージの向上が期待されます。



【下川町の概要】

北海道の北部に位置した農林業を基幹産業とした町です。人口は 約3,700人。町の面積の約9割が森林となっており、自然豊かな町です。平成20年（2008年）には、国の「環境モデル都市」として認定を受けており、豊かな森林資源を活用して、低炭素社会構築に向け、様々な取組を行っています。町の代表的なイベントである「アイスキャンドルフェスティバル」では、町中に3,000個のキャンドルが灯り、幻想的な雰囲気を演出しており、町の冬の風物詩となっています。









地域熱供給施設から役場、公民館、消防、総合福祉センターへ熱供給

■担当者連絡先
樋口　知志　TEL：01655-4-2511
EMAIL：syoukou@town.shimokawa.hokkaido.jp
URL：http://hokkaido-tree.main.jp/4rest/

J-VER
削減

生活協同組合コープさっぽろ
BDFを用いたCO2削減宅配プロジェクト

登録番号：JVR0090

廃食用油を回収し、配達車両燃料へ転換再利用することで、二酸化炭素の削減と組合員さん自らが環境問題へ参加することを体感して頂く、両方の目的を持っています。

プロジェクトの実施場所	北海道全域
削減量（予測）	ー
在庫量	ー
1t-CO2あたりの希望単価	ー

コープさっぽろでは組合員の家庭から集めた廃食用油、各店舗の店頭で回収している廃食用油を既存の商品流通網の帰り便（静脈物流）を使って回収し、コープさっぽろのエコセンターへ集めています。これらをBDFとして燃料化し、コープさっぽろの商品宅配サービス（トドック）のトラック燃料として軽油に代替し使用しています。このことによって従来、各家庭から廃棄されていた廃食用油分をBDF燃料化し、CO2削減を図ることを実現しました。また、自ら集めた廃食用油が、トラックの燃料として再利用されていることを体感することによって、組合員の環境問題への意識を高めることも目的としています。



担当者連絡先：
生活協同組合コープさっぽろ　担当：鈴木
TEL：011-671-6620　HP:　http://www.coop-sapporo.or.jp/

J-クレジット
削減

合同会社北海道新エネルギー事業組合
ヒートポンプを利用したエコアグリハウスにおける温室効果ガス排出削減事業

登録番号：JC0003

本事業は、ビニールハウスの暖房として利用される標準的な灯油焚温風暖房機ではなく、ヒートポンプをベースとした灯油焚温風暖房機との併用にすることで、灯油使用量並びに温室効果ガス排出量を削減するものです。

プロジェクトの実施場所	北海道標津郡中標津町
削減量（予測）	年間　45　t-CO2
在庫量	ー
1t-CO2あたりの希望単価	要相談

わたしたちは、平成23年2月より、中標津町開陽地区にヒートポンプを活用したビニールハウスによる水耕栽培を実施しています。

施設の実施規模は、ビニールハウス三棟で成り立ち、一棟当たりのサイズは、間口10.8m×奥行92m×軒高3mによる高断熱複層ビニールにより、室内の保温効果を高め、ヒートポンプを利用することで、灯油ボイラーの利用を半減させ、省エネ化及びCO2排出量を削減できます。ヒートポンプを活用した水耕栽培は、将来的にも可能性があり、中標津町における新しい農業ビジネスとして新産業の創出を図り、さらに、通年栽培が可能で軽易な作業であることから、高齢者や障害者を含む雇用の創出により、地域の活性化を目指します。

近年は、観光向け一般公開、教育研修として活用した例もあり、土臭くなくクセのない食べやすい野菜として注目を集めています。



■担当者連絡先　寺端祐介
TEL：0153-73-2050　EMAIL：info@hokkaido-newene.co.jp

J-クレジット
削減

北海道士別市

生ごみ等のバイオマス資源堆肥化による温室効果ガス排出削減プロジェクト

登録番号：JC0049

本事業では、生ごみ等の有機性廃棄物を堆肥化することによって埋め立て処理量を減らし、メタン等の温室効果ガスの排出削減を行っており、具体的には、家庭などで発生する「生ごみ」、野菜選果場で発生する「野菜残さ」、浄化センターで発生する「下水汚泥」、家庭などで発生する「剪定枝」を埋め立て処理から堆肥化処理に変更することによって、温室効果ガスの排出量を削減しています。

プロジェクトの実施場所	北海道士別市
削減量（予測）	2014～2020年度 計　489 t-CO_2
在庫量	―　（2015年2月時点）
1t-CO_2あたりの希望単価	要相談

士別市は、地域内で未利用となっていた生ごみなどのバイオマス資源を地域内で効率的に利用するため、バイオマス資源堆肥化施設を整備し、市民の理解、協力のもと、環境負荷の低減と循環型社会の構築に取り組んでいます。

また、本事業で製造した堆肥は、良質な堆肥として農地や家庭菜園などの「土づくり」に利用されており、バイオマス資源の循環利用により温室効果ガス排出量の削減を行っております。



バイオマスを利用した堆肥を2種類製造し、市内で販売しています。

■ 名称：キッチンりぼん（生ごみ、野菜残さを原料）
■ 名称：エコみち君（下水汚泥を原料）





■担当者連絡先　士別市経済部畜産林務課
TEL：0165-23-3121
E-MAIL：chikurinka@city.shibetsu.lg.jp

「国内クレジット制度」の取組

国内クレジット制度は、京都議定書目標達成計画（平成20年3月28日閣議決定）に規定された、大企業等による技術・資金等の提供を通じて、中小企業等が行った温室効果ガス排出削減量を認証し、自主行動計画や試行排出量取引スキームの目標達成等のために活用できる制度で、平成20年10月に政府全体の取組として開始されました。

中小企業のみならず、農林（森林バイオマス）、民生部門（業務その他、家庭）、運輸部門等における排出削減も広く対象としていました。

その後、国内クレジット制度は、J-VER制度と発展的に統合されて、平成25年度からJ-クレジット制度となりました。

ここでは、国内クレジット制度の下、北海道において取り組まれたプロジェクトをご紹介します。

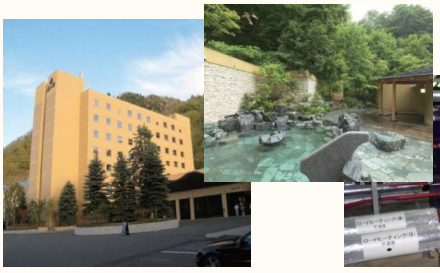
株式会社阿寒グランドホテル
～温泉熱を利用した温熱供給システム導入事業～

鶴雅グループは「ゼロカーボンプロジェクト」を立ち上げ、温泉熱、温泉排熱利用で省エネを進めると共にCO2の削減にも努力しております。定山渓温泉は高温の温泉があり省エネ効果が大きく、今後も効率を上げる設計を進めております。温泉熱利用は、エネルギー資源に乏しい日本のエネルギー供給施策として火山大国であるわが国の有効な手段ではないでしょうか。

プロジェクトの実施場所	定山渓鶴雅リゾートスパ森の謌
エネルギー削減量 （原油換算）	124．1KL／年
CO2排出削減量	201t-CO2／年

1．導入設備のポイント
［温泉熱回収システム］高温の温泉熱を熱交換器により、貯湯槽の補給水の加温等に利用することによって、重油使用量を削減。
［排湯熱回収システム］排湯の熱を熱交換器により、ロードヒーティングの熱源として利用することによって、重油使用量を削減。

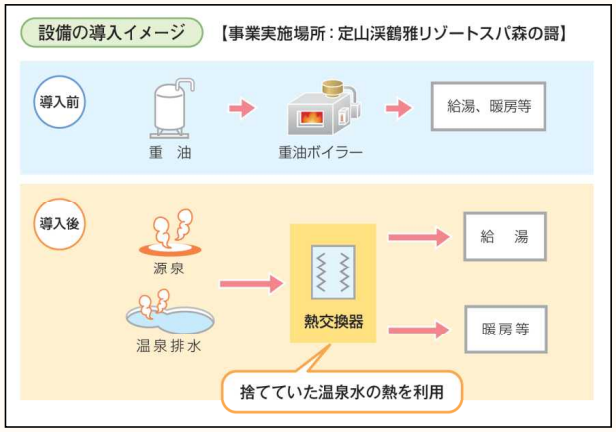
2．導入設備
プレート式熱交換器、樹脂製熱交換器


定山渓鶴雅リゾートスパ森の謌

露天風呂（森スパ）


熱交換器

温泉熱の段階的な熱回収及び排湯熱の熱回収の総合利用により、重油使用量を削減。



■ 企業概要
事業者名　：　株式会社阿寒グランドホテル
代表者　：　代表取締役　大西　雅之
設立年月日：　1956年3月16日
所在地　：　釧路市阿寒町阿寒湖温泉4丁目6番10号
事業内容　：　ホテル業経営
URL　：　http://www.tsurugagroup.com/

日本アスパラガス株式会社
～飲料製造工程における熱回収型ヒートポンプ導入事業～

道内で製造される清涼飲料の約25%を生産しており、清涼飲料製造業としては、道内第2位の製造数となっております。
今回のシステムは全量を捨てているレトルトAライン冷却排水からの排熱回収を行い、ボイラー補給水の加温をすることでC重油燃料使用量の削減を図ります。熱交換＋ヒートポンプの2段熱回収システムとすることで、より高温の温水製造・供給を実現するとともに、ヒートポンプのスケールダウンを図り、よりコンパクトで普及性の高いシステム構成としております。

プロジェクトの実施場所	日本アスパラガス株式会社
エネルギー削減量 （原油換算）	168．2KL／年
CO2排出削減量	706t-CO2／年

1．導入設備のポイント
従来捨てていた飲料製造工程の冷却排水の熱を利用し、熱交換器により補給水を加温。さらに熱回収型ヒートポンプで加温することによって重油使用量を削減。

2．導入設備
高効率高温熱回収型ヒートポンプ、シェル＆チューブ式熱交換器

日本アスパラガス株式会社　本社・岩内工場

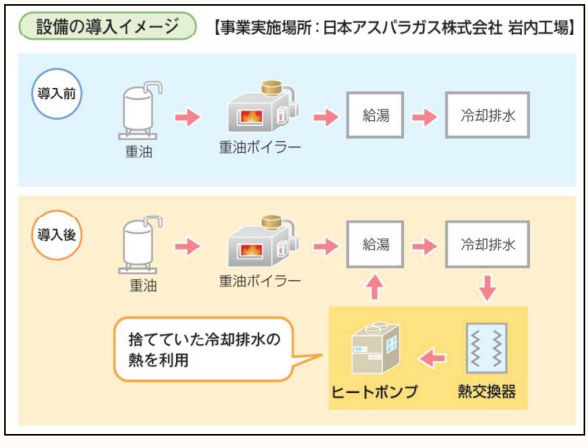




シェル＆チューブ式熱交換器


熱回収型ヒートポンプ

飲料製造工程の冷却排水から熱回収し、ボイラー補給水の加温を行うことで、重油使用量を削減。



■ 企業概要
事業者名　：　日本アスパラガス株式会社
代表者　：　代表取締役社長　工藤　祐之
設立年月日：　1951年11月21日
所在地　：　岩内郡岩内町字野束22番地3
事業内容　：　清涼飲料製造業、食料品、缶詰、びん詰の製造及び販売、酒類の製造　及び販売
URL　：　http://www.nichiasu.co.jp/index2.html#

オシキリ食品株式会社

～排熱回収再利用システム導入事業 ～

「まごころで健康ファミリーを創る、オシキリ食品」を企業使命感として、美味しく、栄養豊かな製品を創り、健康と幸せをご家庭にお届けすることをモットーに努力してまいりました。食生活における自然食品の役割は大変重要であるとの考えの下に日本伝統食品に拘り、原料の厳しいチェックを始め生産管理、製品管理の充実を図り設備面での近代化を図っています。

プロジェクトの実施場所	オシキリ食品株式会社
エネルギー削減量 （原油換算）	425．2KL／年
CO2排出削減量	1，178t-CO2／年

1．導入設備のポイント
　従来、重油ボイラーでの単一手段によりもやし製造工程で使用する散水を加温していたが、もやし栽培時に発生する発芽育成熱を含んだ散水排水からもやし栽培工場専用に設計された熱交換器で熱を回収し、複合的な加温をすることによって重油使用量を削減。

2．導入設備
　プレート式熱交換器

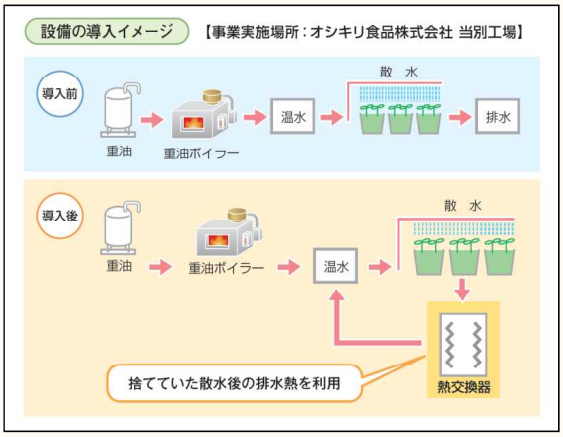


オシキリ食品株式会社　当別工場



熱交換器

もやし栽培時における散水後の排水熱を排熱回収装置により回収して、もやし栽培に還元し、重油の使用量を削減。



■ 企業概要
事業者名　：　オシキリ食品株式会社
代表者　　：　代表取締役社長　押切　進
設立年月日：　1953年12月1日
所在地　　：　江別市工栄町5番地7
事業内容　：　豆腐、油揚げ、蒟蒻、ところてん、納豆、もやし製造及び販売
URL　　：　http://www.oshikiri-foods.jp/

株式会社サトウ

～バイオマスボイラーの余剰蒸気を活用した小型蒸気発電機導入事業 ～

バイオマスエネルギーの地産地消による道産カラマツの有効利用により、道内木材産業の活性化及び環境コストの低減を図ります。またクレジットを通じて、地元の産業部門の低炭素化を支える地域ぐるみのCO2排出抑制・相殺と、国内全体への貢献を図ります。

プロジェクトの実施場所	株式会社サトウ
エネルギー削減量 （原油換算）	114．9KL／年
CO2排出削減量	260t-CO2／年

1．導入設備のポイント
　未利用となっていた木材の乾燥等に使用しているボイラー蒸気の余剰分を小型蒸気発電機の導入により活用することで、系統電力の使用量を削減。

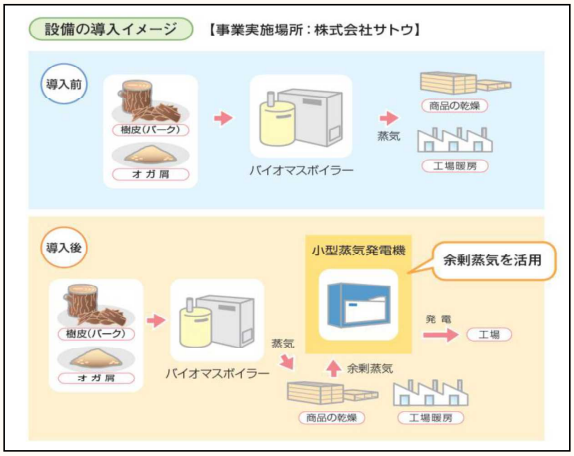
2．導入設備
　スクリュー式小型蒸気発電機



小型蒸気発電機


バイオマスボイラー

小型蒸気発電機を導入することにより、余剰蒸気を活用し、系統電力の使用を削減。



■ 企業概要
事業者名　：　株式会社サトウ
代表者　　：　代表取締役社長　佐藤　嘉英
設立年月日：　1947年6月5日
所在地　　：　帯広市西25条北1丁目1番3号
事業内容　：　道産カラマツ製材および加工全般
URL　　：　http://www.karamatu-satou.com/company.php

北海道内における
国内クレジット制度申請事業一覧

中小企業等が省エネ・新エネ設備を導入することにより、削減できたＣＯ２排出削減量（クレジット）を大企業等に売却できる制度である「国内クレジット制度」を活用して、以下のような事業が申請されています。（平成２５年７月９日現在）

■ 平成20年度

	排出削減事業者	共同実施者	事業概要	認証クレジット量
1	イオン北海道㈱ （ｲｵﾝ苫小牧ｼｮｯﾋﾟﾝｸﾞｾﾝﾀｰ） 【札幌市】	イオンリテール㈱	ショッピングセンター内の空調設備の効率化	未認証
2	㈱阿寒グランドホテル 【釧路市】	北海道電力㈱	温泉施設におけるヒートポンプ導入による熱源設備の更新（重油→電気）、温泉熱及び温泉排熱のエネルギー利用	6233 t-CO2
3	帯広市 【帯広市】	北海道電力㈱	市庁舎及び市営文化施設における空調機・排風機へのインバーター制御の導入、照明設備の変更	595 t-CO2

■ 平成21年度

	排出削減事業者	共同実施者	事業概要	認証クレジット量
1	㈱白生舎 【千歳市】	三菱商事㈱ ㈱FTカーボン	クリーニング工場におけるボイラーの燃料転換（重油→都市ガス）	1889 t-CO2
2	北海道地域暖房㈱ 【札幌市】	ﾌｧｲﾅﾝｽ ｱﾝﾄﾞ ﾄﾚｰﾃﾞｨﾝｸﾞ ｶｰﾎﾞﾝ	地域熱供給企業におけるボイラーの燃料転換（重油→都市ガス）、インバータ制御導入	未承認
3	㈱モリチクリーニング 【函館市】	三菱商事㈱ ㈱イースクエア	クリーニング工場におけるリネン乾燥用途等の木質バイオマスボイラーの新設	10019 t-CO2
4	帯広空港ﾀｰﾐﾅﾙﾋﾞﾙ㈱ 【帯広市】	㈱イースクエア	空港ﾀｰﾐﾅﾙﾋﾞﾙにおけるボイラー更新（重油→重油）、ヒートポンプの導入による熱源設備の更新（重油→電気）、空調設備の更新（重油、電気→電気）、パッケージ空調機への間欠運転制御の導入、搬送ポンプ・給排気ファンへのインバータ制御の導入、照明設備の更新	441 t-CO2
5	男山㈱ 【旭川市】	カーボンフリーコンサルティング㈱	酒造工場におけるボイラーの燃料転換（重油→都市ガス）	1237 t-CO2
6	北竜町 （ｻﾝﾌﾗﾜｰﾊﾟｰｸ北竜温泉） 【北竜町】	北海道電力㈱	温泉施設におけるヒートポンプの導入による熱源設備の更新（灯油→電気）、温泉熱及び温泉排熱のエネルギー利用	1686 t-CO2
7	赤平オーキッド㈱ 【赤平市】	北海道電力㈱	農場（園芸）におけるヒートポンプの導入による熱源設備の更新（灯油→電気）	2564 t-CO2
8	㈱カミホロ荘 【上富良野町】	北海道電力㈱	温泉施設におけるヒートポンプの導入による熱源設備の更新（重油→電気）	648 t-CO2
9	黒松内銘水㈱ 【黒松内町】	北海道電力㈱	ミネラルウォーター製造工場におけるヒートポンプシステムの導入による熱源設備の更新（重油→電気）	575 t-CO2
10	㈱サークルクリーン 【札幌市】	㈱エコノス	クリーニング工場におけるヒートポンプ給湯システムの導入	63 t-CO2
11	医療法人社団刀圭会 （帯広協立病院） 【帯広市】	北電総合設計㈱	病院における温泉熱利用と熱回収型ヒートポンプシステムの導入	未承認
12	㈱ノアール 【厚沢部町】	㈱ＦＴカーボン	農産物直販会社におけるボイラーの新設（バイオガス、木質バイオマス）	211 t-CO2

北海道内における
国内クレジット制度申請事業一覧

	排出削減事業者	共同実施者	事業概要	認証クレジット量
13	㈱合田観光商事 （釧路ひまわり） 【札幌市】	㈱ﾌﾟﾗｽｻｽﾃﾅﾋﾞﾘﾃｨ	遊戯施設における照明設備の更新（ＬＥＤ化）	101 t-CO2
14	㈱合田観光商事 （函館ひまわり他） 【札幌市】	㈱ﾌﾟﾗｽｻｽﾃﾅﾋﾞﾘﾃｨ	遊戯施設における照明設備の更新（ＬＥＤ化）	153 t-CO2
15	サッポロ都市開発㈱ 【札幌市】	アズビル㈱	商業複合施設サッポロファクトリーにおけるポンプ・ファン類可変能力制御機器の導入	729 t-CO2
16	くみあい乳業㈱ 【旭川市】	よつ葉乳業㈱	乳業工場におけるボイラーの更新（重油→都市ガス）	3618 t-CO2
17	㈱大館観光（大雪乃湯） 【旭川市】	㈱イースクエア	温泉施設におけるボイラーの燃料転換（重油→木質バイオマス）	4191 t-CO2
18	津別町（中央公民館等） 【津別町】	㈱イースクエア	中央公民館等におけるボイラーの燃料転換（重油→木質バイオマス）	887 t-CO2
19	津別町 （特別養護老人ホーム等） 【津別町】	㈱イースクエア	特別養護老人ホーム等におけるボイラーの燃料転換（重油→木質バイオマス）	779 t-CO2
20	津別町（町役場庁舎） 【津別町】	㈱イースクエア	町役場庁舎におけるボイラーの燃料転換（重油→木質バイオマス）	124 t-CO2
21	札幌市（札幌ドーム） 【札幌市】	カーボンバンク㈱	札幌ドームにおける空調ポンプのインバーター制御の導入	791 t-CO2
22	釧路和商協同組合 【釧路市】	マイクライメイトジャパン㈱	市場におけるポンプ・ファン類のインバータ制御導入、照明設備の更新	699 t-CO2
23	㈱ケン・プレミア札幌マネジメント （ノボテル札幌） 【札幌市】	マイクライメイトジャパン㈱	ホテルにおけるボイラーの燃料転換（重油→天然ガス）	1430 t-CO2
24	淳工房 【旭川市】	㈱イースクエア	ガラス工房におけるガラス炉の燃料転換（灯油→廃食油）	206 t-CO2
25	知内町 （健康保養センターこもれび温泉） 【知内町】	北海道電力㈱	温泉施設におけるヒートポンプの導入による熱源設備の更新（重油→電気）	1096 t-CO2
26	㈱知床グランドホテル 【斜里町】	北電総合設計㈱	ホテルにおける熱回収型ヒートポンプの導入	未承認
27	東神楽温室園芸組合 【東神楽町】	㈱イースクエア	野菜栽培ハウスにおける空調設備の更新	519 t-CO2
28	北海道サンアグロ㈱ 【函館市】	北電総合設計㈱	肥料製造工場における熱風炉の燃料転換（重油→天然ガス）	未承認
29	加森観光㈱（ルスツリゾート） 【札幌市】	アズビル㈱	リゾートホテルにおける空調機及び外調機ファン、冷温水ポンプへのインバーター制御の導入	1064 t-CO2
30	医療法人王子総合病院 【苫小牧市】	北電総合設計㈱	病院におけるポンプ・ファン類のインバータ制御の導入、照明設備の更新	未承認
31	大友観光開発㈱ （層雲峡観光ホテル） 【上川町】	㈱イースクエア	観光ホテルにおけるボイラーの燃料転換（重油→廃食油）	489 t-CO2

北海道内における
国内クレジット制度申請事業一覧

	排出削減事業者	共同実施者	事業概要	認証クレジット量
32	医療法人亀田病院 （亀田北病院） 【函館市】	北電総合設計㈱	病院におけるボイラーの更新（灯油→天然ガス）	未承認
33	㈱知床プリンスホテル 【斜里町】	北電総合設計㈱	ホテルにおける温泉熱利用熱回収型ヒートポンプの導入	未承認
34	㈱ツルハ 【札幌市】	㈱イースクエア	医薬品等の店舗における照明設備の更新	750 t-CO2
35	沼田町 （ほろしん温泉ほたる館） 【沼田町】	北海道電力㈱	温泉施設におけるヒートポンプの導入による熱源設備の更新（重油→電気）	135 t-CO2
36	㈱ベリージャパン 【旭川市】	㈱イースクエア	健康福祉施設におけるボイラーの燃料転換（重油→廃食油）	573 t-CO2
37	㈱ロバパン 【札幌市】	大丸藤井㈱	パン製造工場におけるボイラーの燃料転換（重油→天然ガス）	298 t-CO2

■ 平成22年度

	排出削減事業者	共同実施者	事業概要	認証クレジット量
1	社会福祉法人彩咲会 （養護老人ﾎｰﾑﾁﾎﾞﾘの森） 【登別市】	北海道電力㈱	養護老人ホームにおけるヒートポンプ導入による熱源設備の新設	128 t-CO2
2	加森観光㈱（ルスツリゾート） 【札幌市】	北海道電力㈱	宿泊施設における熱回収型ヒートポンプの導入による熱源設備の更新（重油→電力）	1084 t-CO2
3	浦幌町（うらほろ留真温泉） 【浦幌町】	㈱イースクエア 帯広信用金庫	温泉施設における木質バイオマスボイラーの新設	749 t-CO2
4	㈱ツルハ 【札幌市】	㈱イースクエア	医薬品等の店舗における照明設備の更新	2658 t-CO2
5	（有）恒心（こうしんの湯） 【札幌市】	㈱イースクエア テス・エンジニアリング㈱	公衆浴場におけるボイラーの燃料転換（重油→都市ガス）	641 t-CO2
6	(有)ヒット（湯屋サーモン） 【札幌市】	㈱イースクエア テス・エンジニアリング㈱	公衆浴場におけるボイラーの燃料転換（重油→都市ガス）	940 t-CO2
7	学校法人吉田学園 【札幌市】	㈱イースクエア テス・エンジニアリング㈱	学校施設におけるボイラーの燃料転換（重油→都市ガス）	581 t-CO2
8	横山食品㈱（道東工場） 【札幌市】	カーボンフリーコンサルティング㈱	大豆関連食品工場におけるファン類へのインバーター制御の導入、照明設備の更新、ボイラーの更新（高効率化）	171 t-CO2
9	横山食品㈱（本社工場） 【札幌市】	カーボンフリーコンサルティング㈱	大豆関連食品工場におけるファン類へのインバーター制御の導入、照明設備の更新、ボイラーの更新（高効率化）	137 t-CO2
10	（有）アージュ 【安平町】	北海道電力㈱	園芸施設における空調設備の更新（灯油→電気）	83 t-CO2
11	士別市（朝日地域交流施設） 【士別市】	㈱イースクエア	地域交流施設におけるバイオマスボイラーの新設（木質バイオマス）	682 t-CO2

北海道内における
国内クレジット制度申請事業一覧

	排出削減事業者	共同実施者	事業概要	認証クレジット量
12	社会福祉法人北海道ﾊﾋﾟﾆｽ 【札幌市】	北海道電力㈱	福祉施設におけるヒートポンプの導入による熱源設備の新設	88 t-CO2
13	北海道ワイン㈱ 【小樽市】	北海道電力㈱	食品工場（ワイン）におけるヒートポンプの導入による熱源設備の更新（重油・LPG→電気）、空調設備の更新（灯油→電気）	196 t-CO2
14	みんなでカーボンオフセット（国内クレジット）の会 【札幌市】	特定非営利活動法人北海道ｸﾞﾘｰﾝﾌｧﾝﾄﾞ	【プログラム型排出削減事業】 住宅におけるペレットストーブの導入	98 t-CO2
15	㈱ 札幌総合サービス 【札幌市】	ﾃｽ･ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ㈱	クリーニング工場におけるボイラーの更新（重油→都市ガス）	未承認
16	だるま食品㈱ 【小樽市】	㈱イースクエア	食品工場におけるボイラーの更新（重油→都市ガス）	642 t-CO2
17	(有)ﾃﾞﾘﾊﾞﾘｰﾌｨｰﾄﾞｾﾝﾀｰ名寄 【名寄市】	㈱イースクエア	酪農施設におけるボイラーの更新（灯油→バイオガス）、バイオマスボイラーの新設（バイオガス）	未認証
18	南幌町 （なんぽろ温泉ﾊｰﾄ&ﾊｰﾄ） 【南幌町】	㈱イースクエア	温泉施設におけるボイラーの更新（重油→木質等バイオマス）	336 t-CO2
19	社会福祉法人北海道光生舎 【赤平市】	㈱イースクエア	クリーニング工場におけるボイラーの更新（重油→都市ガス）	789 t-CO2
20	北海道森紙業㈱ 【千歳市】	ﾃｽ･ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ㈱	段ボール製造工場におけるボイラーの更新（重油→都市ガス）	未承認
21	菊池食品工業㈱（函館工場） 【東京都】	ﾃｽ･ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ㈱	総菜工場におけるボイラーの更新（ＬＰＧ→ＬＰＧ）	180 t-CO2
22	セントラルリーシングシステム㈱ 【札幌市】	三井住友ファイナンス＆リース㈱	新千歳空港における雪氷融解水のエネルギー利用	713 t-CO2
23	上富良野町□ （吹上温泉保養ｾﾝﾀｰ白銀荘） 【上富良野町】	（公財）北海道環境財団	温浴施設におけるヒートポンプの導入による給湯設備の更新（灯油→電力）	214 t-CO2
24	（有）渋田産業 【厚沢部町】	（公財）北海道環境財団	舞茸生産工場におけるボイラーの更新（重油→木質バイオマス）	未承認
25	士幌町農業協同組合 【士幌町】	（公財）北海道環境財団	澱粉工場におけるボイラーの更新（重油→バイオガス）	2298 t-CO2
26	月形町 （月形町交流センター） 【月形町】	㈱イースクエア	町営施設におけるボイラーの新設（木質バイオマス）	160 t-CO2
27	㈱ジャスマックプラザホテル 【札幌市】	（公財）北海道環境財団	ホテルにおけるボイラーの更新(重油→天然ガス)、空調設備の更新(重油→天然ガス)	2290 t-CO2
28	㈱阿寒グランドホテル□ （定山渓鶴雅ﾘｿﾞｰﾄﾊﾞ森の謌） 【釧路市】	（公財）北海道環境財団	温泉施設における温泉熱および温泉排熱のエネルギー利用	1000 t-CO2
29	厚岸町 （厚岸町立特別養護老人ホーム心和園） 【厚岸町】	㈱イースクエア	特別養護老人ホームにおけるヒートポンプの導入による給湯設備の新設	44 t-CO2
30	帯広市（コミュニティセンター等） 【帯広市】	（公財）北海道環境財団 帯広信用金庫	公共施設における照明設備の更新（ＬＥＤ化）	240 t-CO2
31	帯広信用金庫 【帯広市】	㈱イースクエア	事務所ビルにおけるヒートポンプの導入による空調設備の新設	84 t-CO2

北海道内における
国内クレジット制度申請事業一覧

	排出削減事業者	共同実施者	事業概要	認証クレジット量
32	喜茂別町 【喜茂別町】	北海道電力㈱	町役場における空調設備の更新(灯油→電気)	134 t-CO2
33	（財）札幌勤労者職業福祉センター 【札幌市】	カーボンフリーコンサルティング㈱	公共施設におけるボイラーの更新（灯油、都市ガス→都市ガス）、ポンプ等への間欠運転制御・ポンプ台数制御・インバーターの導入、照明設備の更新	767 t-CO2
34	㈱サンワドー（砂川店） 【青森市】	北海道電力㈱	店舗におけるヒートポンプの導入による空調設備の更新（重油→電気）	未認証
35	㈱ハマノホテルズ 【札幌市】	（公財）北海道環境財団	温泉宿泊ホテルにおける重油ボイラーから熱交換器導入による温泉排熱利用への更新	未承認
36	㈱福原 【帯広市】	一般社団法人九州ｶｰﾎﾞﾝﾈｯﾄﾜｰｸ協会	スーパーにおける照明設備の更新	未認証
37	㈱ベリオーレ 【士幌町】	帯広信用金庫 (公財)北海道環境財団	温泉施設におけるコージェネレーションの導入（重油、ＬＰＧ→バイオガス）	283 t-CO2
38	北雄ラッキー㈱（岩内店） 【札幌市】	北海道電力㈱	スーパーにおけるヒートポンプの導入による空調設備の新設	480 t-CO2
39	社会福祉法人幕別真幸協会 （特別養護老人ホーム札内寮等） 【幕別町】	北電総合設計㈱	特別養護老人ホーム等におけるヒートポンプの導入による給湯設備の新設、ヒートポンプの導入による空調設備の新設	21 t-CO2
40	北海道トンボ㈱ 【札幌市】	カーボンフリーコンサルティング㈱	事務所ビルにおけるヒートポンプの導入による空調設備の更新（重油→電気）	227 t-CO2

■ 平成23年度

	排出削減事業者	共同実施者	事業概要	認証クレジット量
1	北雄ラッキー㈱（美幌店ほか） 【札幌市】	Ginga Energy Japan㈱ テス・エンジニアリング㈱	スーパーマーケットにおける照明設備の更新	528 t-CO2
2	㈱道北野菜栽培所 【鷹栖町】	(公財)北海道環境財団	食品工場（もやし）における回収した未利用の排熱への熱源切り替え	134 t-CO2
3	オシキリ食品㈱ 【江別市】	(公財)北海道環境財団	食品工場（もやし）における回収した未利用の排熱への熱源切り替え	2041 t-CO2
4	十勝立正福祉事業会 【帯広市】	(公財)北海道環境財団 帯広信用金庫	児童福祉施設におけるボイラーの新設(木質ボイラー)	175 t-CO2
5	朝日食品㈱ （㈱合食グループ） 【北斗市】	一般社団法人低炭素投資促進機構	食品工場（水産物）におけるボイラーの新設（都市ガス）	26 t-CO2
6	長沼アグリ㈱ 【長沼町】	一般社団法人低炭素投資促進機構	農場（ハウス栽培）における空調設備の新設（バイオディーゼル燃料）	363 t-CO2
7	㈱ソプラティコ 【小樽市】	一般社団法人低炭素投資促進機構	スポーツクラブにおけるボイラーの更新（重油→バイオディーゼル燃料）	366 t-CO2
8	北海道吉野石膏㈱ 【恵庭市】	一般社団法人低炭素投資促進機構	石膏ボード工場におけるポンプ・ファン類の更新	64 t-CO2
9	I’ m ECO2 プロジェクト 【札幌市】	北海道電力㈱	集合住宅におけるヒートポンプ導入による熱源設備の新設	34 t-CO2
10	I’ m ECO2 プロジェクト 【札幌市】	北海道電力㈱	集合住宅における空調設備の新設	7 t-CO2

北海道内における
国内クレジット制度申請事業一覧

	排出削減事業者	共同実施者	事業概要	認証クレジット量
11	北見市街路灯組合連合会 【北見市】	日本商工会議所	自治会における照明設備の更新（LED化）	97 t-CO2
12	カラカミ観光㈱ 【札幌市】	㈱エコノス	ホテルにおける照明設備の更新（LED化）	未承認
13	日本アスパラガス㈱ 【岩内町】	（公財）北海道環境財団	食品工場（飲料）におけるヒートポンプの導入による熱源機器の更新（C重油→電気）	428 t-CO2
14	旭川リゾート開発㈱ 【旭川市】	一般社団法人低炭素投資促進機構	ゴルフ場クラブハウスにおけるボイラーの更新（重油→バイオマス）	92 t-CO2
15	札幌市（円山動物園） 【札幌市】	（公財）北海道環境財団	動物園におけるボイラーの更新（重油→木質バイオマス）	114 t-CO2
16	赤平市 【赤平市】	一般社団法人低炭素投資促進機構	共同浴場におけるボイラーの更新（灯油→バイオマス、灯油）	133 t-CO2
17	中山間浜中・別寒辺牛集落 【浜中町】	高梨乳業㈱	酪農家施設における太陽光発電設備の導入	518 t-CO2
18	㈱ディンプレックスジャパン 【札幌市】	一般社団法人低炭素投資促進機構	事務所ビルにおけるヒートポンプの導入による熱源機器の新設	14 t-CO2
19	㈱サンワドー 【青森市】	一般社団法人低炭素投資促進機構	ホームセンターにおける空調設備の更新（重油→電気）	未承認
20	ラッキー商事㈱ 【札幌市】	一般社団法人低炭素投資促進機構	スーパーマーケットにおける空調設備の更新（重油、電気→電気）	356 t-CO2
21	北電興業㈱ 【札幌市】	(公財)北海道環境財団	事務所ビルにおける空調設備の更新（重油→電気）、照明設備の更新（LED化）	178 t-CO2
22	㈱ダイナックス 【札幌市】	一般社団法人低炭素投資促進機構	自動車部品製造工場におけるボイラーの更新（重油→都市ガス）	218 t-CO2
23	㈱アンビックス 【札幌市】	一般社団法人低炭素投資促進機構	ホテルにおけるヒートポンプの導入による熱源設備の更新（重油→電気）	376 t-CO2
24	南富良野町（ログホテルラーチ） 【南富良野町】	(公財)北海道環境財団	ホテルにおけるボイラーの更新（重油→木質バイオマス）	325 t-CO2
25	南富良野町（南富良野中学校） 【南富良野町】	(公財)北海道環境財団	中学校におけるボイラーの新設（木質バイオマス）	389 t-CO2
26	帯広市 【帯広市】	帯広信用金庫 (公財)北海道環境財団	市民プールにおけるヒートポンプの導入による熱源設備の更新（重油→電気）	173 t-CO2
27	洞爺湖低炭素推進協議会 【洞爺湖町】	(公財)北海道環境財団	ホテルにおけるヒートポンプの導入による熱源設備の更新（重油→電気）	172 t-CO2
28	伊達市（本庁舎他） 【伊達市】	(公財)北海道環境財団	本庁舎他におけるボイラーの更新（重油、灯油→木質バイオマス）	631 t-CO2
29	伊達市（中学校） 【伊達市】	(公財)北海道環境財団	中学校におけるボイラーの更新（灯油→木質バイオマス）	102 t-CO2
30	伊達市（総合体育館） 【伊達市】	(公財)北海道環境財団	公共施設におけるボイラーの新設（木質バイオマス）	36 t-CO2
31	㈱中田園 【帯広市】	帯広信用金庫 (公財)北海道環境財団	食品工場における回収した未利用の排熱への熱源の切り替え	56 t-CO2
32	国立大学法人北見工業大学 【北見市】	(公財)北海道環境財団	大学における太陽光発電設備の導入、サーバー設備の更新	109 t-CO2
33	㈱サトウ 【帯広市】	(公財)北海道環境財団 帯広信用金庫	製材工場における小型蒸気発電機の導入による余剰蒸気からの発電	89 t-CO2

北海道内における
国内クレジット制度申請事業一覧

■ 平成24年度

	排出削減事業者	共同実施者	事業概要	認証クレジット量
1	合同会社北海道新エネルギー事業組合 【中標津町】	(公財)北海道環境財団	農場（ハウス栽培）における空調設備の新設（電気）	45 t-CO2
2	おひさまソーラーネット帯広 【帯広市】	帯広信用金庫 (公財)北海道環境財団	住宅における太陽光発電設備の導入	448 t-CO2
3	㈱山下家具店 【帯広市】	帯広信用金庫	インテリアショップにおける蛍光灯等から高効率照明への更新	119 t-CO2
4	㈱協和温泉 【愛別町】	(公財)北海道環境財団	宿泊施設におけるボイラーの更新（重油→木質バイオマス）	282 t-CO2
5	㈱クニマレリゾート開発 【増毛町】	一般社団法人低炭素投資促進機構	宿泊施設における温水ボイラーの更新（重油→廃食油）	136 t-CO2
6	㈱阿寒グランドホテル 【釧路市】	一般社団法人低炭素投資促進機構	ホテルにおけるヒートポンプの導入による熱源設備の更新（重油→電気）、温泉熱及び温泉排熱のエネルギー利用	106 t-CO2
7	社会福祉法人大友恵愛会 【札幌市】	一般社団法人低炭素投資促進機構	福祉施設におけるヒートポンプの導入による熱源設備の新設	18 t-CO2
8	(有)プリモグループ 【旭川市】	北電総合設計㈱	事務所ビルにおける空調設備の更新（重油→電気）	未承認
9	北海道社会福祉事業団 【伊達市】	(公財)北海道環境財団	障がい者支援施設におけるボイラーの新設(木質バイオマス)、ヒートポンプの導入による熱源設備の新設	248 t-CO2
10	㈱ハルキ 【森町】	(公財)北海道環境財団	製材工場におけるボイラーの新設(木質バイオマス)	60 t-CO2
11	旭川市 【旭川市】	(公財)北海道環境財団	公共施設における空調設備の更新(重油→都市ガス)、照明設備の更新、太陽光発電設備の導入	138 t-CO2
12	黒松内町 【黒松内町】	(公財)北海道環境財団	温浴施設におけるヒートポンプの導入による熱源設備の更新(重油→電気)	10 t-CO2
13	倶知安機工㈱ 【倶知安町】	一般社団法人低炭素投資促進機構	温泉施設におけるヒートポンプの導入による熱源設備の更新(重油→電気)	8 t-CO2
14	あさひかわ太陽光倶楽部 【旭川市】	(公財)北海道環境財団	住宅における太陽光発電設備の導入	45 t-CO2
15	㈱ツルハ 【札幌市】	一般社団法人低炭素投資促進機構	ドラッグストアにおける照明設備の更新	1083 t-CO2
16	名北ミート㈱ 【森町】	一般社団法人低炭素投資促進機構	食品工場（加工肉）におけるボイラーの更新（重油→LPG）	41 t-CO2
17	㈱弁釜 【札幌市】	一般社団法人低炭素投資促進機構	食品工場（弁当）におけるボイラーの更新（重油→都市ガス）	244 t-CO2
18	日本アスパラガス㈱ 【岩内町】	一般社団法人低炭素投資促進機構	食品工場（飲料）におけるボイラーの更新（重油→都市ガス）	259 t-CO2
19	羽幌町 （はぼろ温泉サンセットプラザ） 【羽幌町】	(公財)北海道環境財団	ホテルにおけるボイラーの更新（重油→重油、廃食油）	141 t-CO2
20	松前さくら漁業協同組合 【松前町】	(公財)北海道環境財団	食品工場（海産物）における冷凍・冷蔵設備の更新（電気→電気）	未認証

※同一排出削減事業者による年度内の認証クレジット量は、合算して記載

出展：国内クレジット認証委員会「国内クレジット認証委員会の公表用資料」（経済産業省・環境省・農林水産省により平成20年10月設置）

編集：経済産業省北海道経済産業局環境・リサイクル課

あなたのオフセットが、北海道の自然を守ることにつながる。

北海道で生み出されたクレジットが、北海道内外で幅広く活用されています。その中でも、モデル的な北海道産クレジットを活用したオフセット事例をご紹介します。

J-クレジットの魅力・特長　Ⅱ

「CO_2削減以外の地域経済の活性化や生物多様性保全などにも貢献」

J-クレジット制度は、地域産業の省エネ設備などの導入支援、木質バイオマスエネルギー等の再生可能エネルギー導入を直接支援することにより、地域経済の活性化に寄与することができます。

また、地域の森林管理活動を直接支援することにより、生物多様性の保全や水源の森の保全等に寄与することができます。

したがって、クレジットの購入・活用は、「クレジット供給元の地域とのつながりが深まり、地域経済活性化や生物多様性などにも貢献できる」といえます。

CO2-0132
http://www.jcs.go.jp/
一般社団法人
小樽観光協会

一般社団法人小樽観光協会

【小樽ゆき物語 第2章 Otaru Snow Story】(65日間開催)における「運河プラザ」(メイン会場)のカーボン・オフセット

【小樽ゆき物語～otaru snow story～第２章】のメイン会場である「運河プラザ」の電気使用及びスタッフ等の移動に伴って発生するCO2をカーボン・オフセットする取組。車使用の抑制、ウォームビズの推進、公共交通機関利用の呼びかけを実施。

平成26年11月15日（土）～平成27年1月18日（日）の65日間にわたり小樽にて開催した冬のイベントである【小樽ゆき物語 第２章 Otaru Snow Story】のメイン会場である「運河プラザ」の電気使用及びスタッフ等の移動に伴って発生するCO2をカーボン・オフセットします。

開催期間中に「運河プラザ」を訪れる来訪客数は約4万人にのぼります。この観光客や地元小樽市民などに向けて、カーボン・オフセットしているイベントであることをPRしました。

クレジットは北海道内にて創出されたJ-VERを活用し、イベントの付加価値向上とカーボン・オフセットの認知拡大を狙います。

小樽ゆき物語



算定範囲	会議・イベント	クレジット種類	J-VER
	【小樽ゆき物語 第2章 Otaru Snow Story】における「運河プラザ」(メイン会場)で開催される催しについて、会場使用及び移動に係る活動	プロジェクト名	石狩市市有林間伐促進プロジェクト ～ニシンが群来（くき）る豊かな海を未来に繋ぐ森づくり～　他
		無効化日	平成27年3月末日(予定)
担当プロバイダー	マイクライメイトジャパン株式会社	無効化量	23t-CO2
認証期間	平成26年10月23日～平成27年10月22日	お問合せ	一般社団法人小樽観光協会　担当：永岡 TEL：0134-33-2510

CO2-0141
http://www.jcs.go.jp/
有限会社ほんだ菓子司

有限会社ほんだ菓子司

りんごのお菓子で日本一を目指す「ほんだ」の看板商品である「林檎ロマン」のカーボン・オフセット

りんごのお菓子の原材料調達や生産等に伴って排出されるCO2をカーボン・オフセットする取組。
お菓子の原料にはできる限り地元の原材料を選択し、
簡易包装を行っています。

りんごのお菓子で日本一を目指す「ほんだ」が製造し、北海道内の直営店舗とオンラインショップ等を通じて販売する「林檎ロマン」の原材料調達や生産等に伴って排出されるCO2を北海道産等の持続可能な森林管理を推進するクレジットを用いてカーボン・オフセットします。

気候変動は食料の収穫量やその品質などに大きな影響を与え、その被害は価格の高騰や味にも影響を及ぼします。「ほんだ」は今後もおいしいお菓子を提供し続けるためにもCO2の削減への継続的な取り組みは必要であると位置づけ取り組みを行っています。



算定範囲	商品サービス	クレジット種類	①CER　②③J-VER
	「林檎ロマン」の原材料調達および製造に係る活動と「林檎ロマン」の個包装材の原材料調達から廃棄までのライフサイクルを通じた活動	プロジェクト名	① BK Energia Itacoatiara Project ②北海道有林森林吸収エコビジネス支援プロジェクト ～「キキタの森」の間伐促進プロジェクト～ ③北海道4町連携による間伐促進型森林づくり事業
担当プロバイダー	マイクライメイトジャパン株式会社	無効化日	①　2015 年2 月6 日 ②③2015 年3 月末日（予定）
		無効化量	①6t-CO2　②3t-CO2　③3t-CO2
認証期間	2015年1月1日～2015年12月31日	お問合せ	有限会社ほんだ菓子司　担当：専務　本田啓輔 TEL：0125-52-6321　Mail：info@ringo-club.jp

北海道産クレジットを活用した事例
（平成23～25年度地方発カーボン・オフセット認証取得支援事業採択案件）

ご紹介したものの他にも数多くの事例がありますが、次のものについては北海道地方環境事務所のホームページに詳細な内容を掲載しておりますので、ぜひこちらもご覧ください。

※詳細URL→http://hokkaido.env.go.jp/earth/mat/m_1_7.html

オフセット事業者	事業名称
サッポロビール株式会社、株式会社サッポロライオン	北海道の森に乾杯～カーボン・オフセット生ビール～
オホーツク紋別空港ビル株式会社	「今日の景色を未来へ繋げる～カーボン・オフセット空港～」
北海道エコ・アクション事務局、株式会社北海道フットボールクラブ	コンサドーレ札幌2012　Jリーグ ～ホームゲームのカーボン・オフセット～
北海道リース株式会社	カーボン・オフセット付オートリースプラン ～ビジネスカー　V-PLAN～
北海道	環境忍者“えこ之助”による活動のカーボン・オフセット
中央バス観光商事株式会社	カーボン・オフセット修学旅行
NPO法人　ezorock	「石狩から北海道各地へ」 ～若者の活動が未来につながるカーボン・オフセット～
NPO法人　シーズケーツー	小学生のカーリングクラブ活動をカーボン・オフセット！ カーリングクラブ活動に伴い発生する年間のCO2排出量をオフセット
きたみらい農業協同組合	北の大地のカーボン・オフセットたまねぎ
創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会国際芸術祭事務局	札幌国際芸術祭2014のカーボン・オフセット
北海道エコ・アクション事務局	グリーン・スクール2014 ―北海道の大自然を舞台に、カーボン・オフセットを体験―

北海道のカーボン・オフセットをさらに進めるために。

北海道におけるカーボン・オフセットをさらに進めるために、多くの行政機関、関係企業・団体、学識経験者が連携した取組が進められています。また、J-クレジットを広くご活用いただくための各種支援策を、併せてご紹介します。



J-クレジットの魅力・特長　Ⅲ

「“ 国際標準” に則った信頼性の高いクレジット」

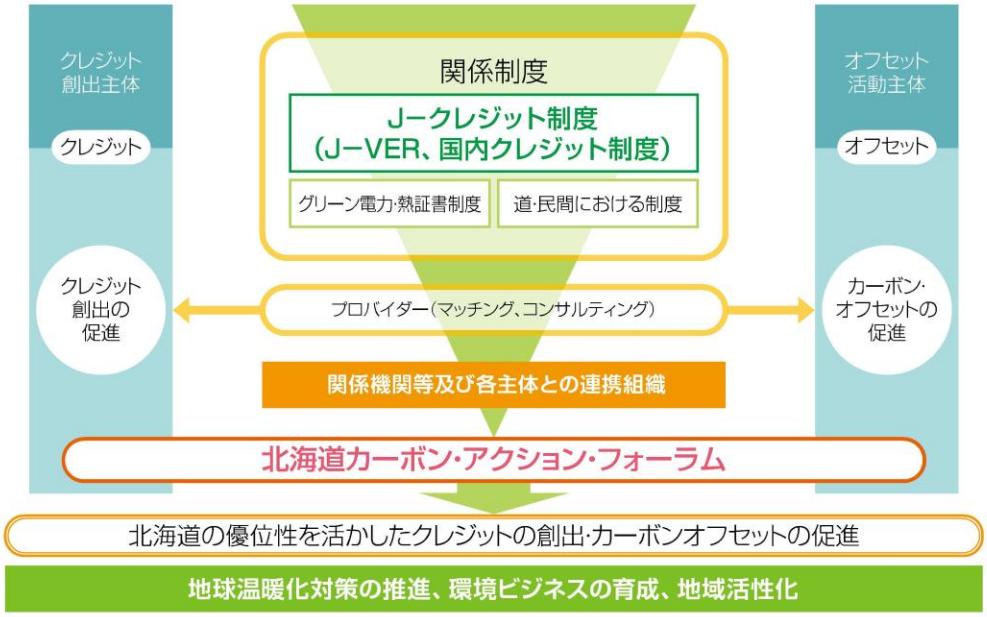
J-クレジット制度は、排出量算定のための「国際標準規格ISO14064-2及びISO14064-3に準拠したクレジット制度」です。市場で取引されるクレジットとして、国際的にも通用する信頼性を確保しています。

北海道カーボン・アクション・フォーラムについて

北海道カーボン・アクション・フォーラム

森林やバイオマスなどの多様な資源が豊富に存在する本道の優位性を活かしながら、カーボン・オフセット等の取組を加速することによって、北海道らしい地球温暖化対策を推進することを目的に、平成22年11月に設立しました。

行政、企業・団体、学識経験者の連携のもと運営し、カーボン・オフセットに関する情報発信や相談支援などを実施する組織です。



情報発信

カーボン・オフセットに関する制度や事例、道産クレジットなどについて、様々な情報を発信しています。

○ホームページでの情報発信
○メールマガジンの配信

相談支援

クレジットの創出からカーボン・オフセットなどのクレジットの活用まで、相談・支援を行う窓口を開設しています。

○窓　口　北海道環境サポートセンター（(公財)北海道環境財団）
○場　所　札幌市中央区北4条西4丁目1　伊藤・加藤ビル4階
○電　話　011-218-7881
○E-mail　hef@heco-spc.or.jp

共通ロゴマークの申請受付

本フォーラムでは、北海道で創出されたクレジットをＰＲするため、Ｊークレジットや Ｊ−ＶＥＲ、国内クレジット等の各制度から創出されたクレジットと、道産クレジットを活用したオフセット事例に共通して使用できるロゴマークを作成し、広く活用していただいております。

使用を希望される方は、フォーラム事務局までご連絡ください。

手続きの流れ



HOKKAIDO CARBON CREDIT

会員受付

随時会員を募集しています（年会費無料）。事務局までご連絡ください。

事務局／問合せ先

北海道カーボン・アクション・フォーラム事務局

北海道環境生活部環境局地球温暖化対策室　電話：011-204-5189
北海道環境サポートセンター（公益財団法人北海道環境財団）　電話：011-218-7881
http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/tot/carbonforum.htm

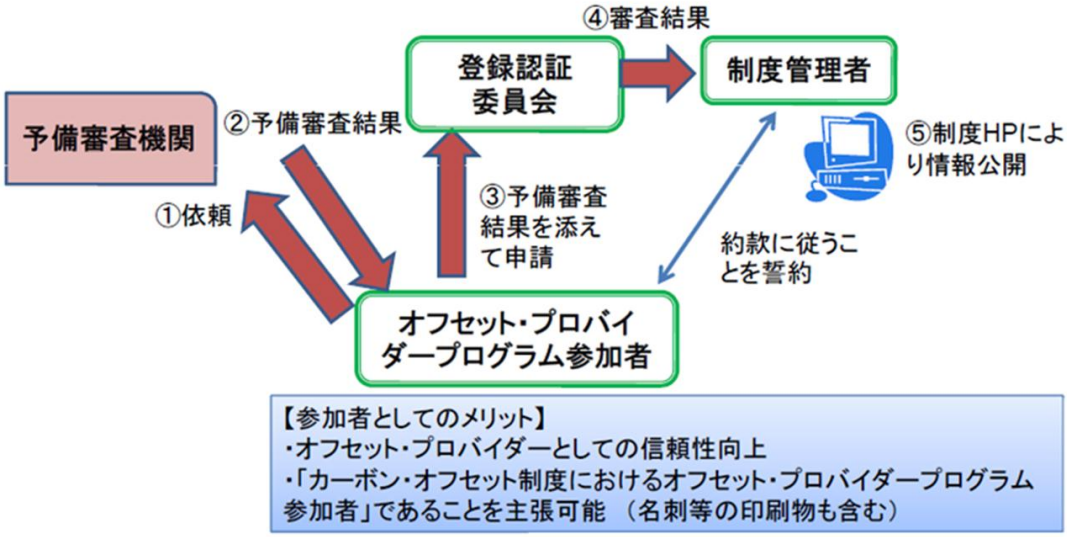
北海道カーボン・アクション・フォーラム　検索

北海道産クレジットでのオフセットにご興味のある方は

オフセット・プロバイダーをご活用ください

オフセット･プロバイダープログラム

「オフセット･プロバイダープログラム」とは、事業者等がオフセット･プロバイダーの利用に当たり、その目安となるように、カーボン･オフセット制度運営委員会が定めるオフセット･プロバイダー基準に基づき、予備審査機関が、申請のあったオフセット･プロバイダーの取引状況を予備審査し、カーボン･オフセット制度登録認証委員会が審査結果を公表するプログラム。(実施規則第3条(2))



制度HP　http://www.jcs.go.jp/offsetprovider.html

カーボン・オフセット制度に参加しているプロバイダー一覧

マイクライメイトジャパン株式会社	東京都中央区新川2-13-10新川ビル4F 担当部署：セールス＆コミュニケーショングループ ウェブ:http://www.myclimate.jp
株式会社イトーキ	東京都中央区京橋3-7-1 相互館110タワー 担当部署:Ecoソリューション企画推進部カーボン・オフセット担当 ウェブ:http://www.itoki.jp/solution/carbon/
株式会社レノバ	東京都千代田区大手町1-7-2　東京サンケイビル18階 担当部署:環境イノベーション事業部 ウェブ:http://www.renovainc.jp/
三菱UFJリース株式会社	東京都千代田区丸の内1-5-1　新丸の内ビルディング 担当部署:環境・エネルギー事業部オフセットサービス室 ウェブ:http://www.lf.mufg.jp/natural/
株式会社e-プランニング	滋賀県大津市藤尾奥町17-1 ウェブ:http://www.co2-ichiba.com/
株式会社PEAR カーボンオフセット・イニシアティブ	東京都中央区築地1-10-11 RATIO 1002 担当部署:総務部 ウェブ:http://www.pear-carbon-offset.org/
株式会社ウェイトボックス	愛知県名古屋市中区栄3-18-1ナディアパークデザインセンタービル7階 ウェブ:http://www.wastebox.net/
カーボンバンク株式会社	千葉県船橋市本町2-2-7　船橋本町プラザビル7階 ウェブ:http://www.carbon-bank.co.jp/
グリーンブルー株式会社	神奈川県横浜市神奈川区西神奈川1-14-12 ウェブ:http://www.gbcarbon.com/
一般社団法人more trees（更新申請中）	東京都渋谷区千駄ヶ谷1-9-11フレンシア外苑西103 ウェブ:http://www.more-trees.org/index.html
カーボンフリーコンサルティング株式会社	東京都中央区築地1-10-11 RATIO 1002 担当部署:総務部 ウェブ:http://www.pear-carbon-offset.org/

※平成27年2月現在

カーボン・オフセット、J-クレジットをさらに知りたい方へ

カーボン・オフセットフォーラム（J-COF）とは？

カーボン・オフセットやオフセット・クレジット（J-VER）（※）に関する普及促進を行う団体として、2008年に環境省によって設立された任意団体です。

※2013年にJ-クレジット制度として国内クレジット制度と統合

情報発信	ホームページやメールマガジンを通じて、カーボン・オフセットに関連する最新情報を発信しています。
相談支援	カーボン・オフセットやJ-クレジット制度に関連したお問合せ・ご相談に随時お答えしています。
普及啓発ツール作成	パンフレットやテキスト、DVD等普及啓発ツールを作成し、イベント・ホームページ等を通して配布しています。
研修会開催等	カーボン・オフセットやJ-クレジット等の講習会等を主催しています。
外部イベント出展	各地で行われる環境関連イベントに出展し、広くカーボン・オフセットの訴求に努めています。
プレゼンテーション	各種セミナー等でカーボン・オフセットに関するプレゼンテーションも承っております。

カーボン・オフセットの最新情報について

パンフレットやカタログなどの各種資料は、カーボン・オフセットフォーラム(J-COF)のHPからダウンロードしていただけます。

カーボン・オフセット、クレジット制度の最新情報は・・

カーボン・オフセットフォーラム(J-COF) まで！

http://www.j-cof.go.jp/

メールマガジン（J-COF通信）もあります！

J-COFメールマガジン 登録もバックナンバーもこちら

CARBON OFFSET FORUM

カーボン・オフセット、J-クレジット制度　お役立ちサイト

環境省	http://www.env.go.jp/earth/ondanka/mechanism/carbon_offset.html
環境省　カーボン・オフセット制度	http://www.jcs.go.jp/
オフセット・クレジット(J-VER)制度	http://www.j-ver.go.jp/index.html
J-クレジット制度	http://japancredit.go.jp/
京都メカニズム情報プラットフォーム	http://www.kyomecha.org/
新メカニズム情報プラットフォーム	http://www.mmechanisms.org/



本パンフレットについてのお問い合わせ先

環境省
北海道地方環境事務所

環境対策課　TEL:011-299-1952　FAX:011-736-1234
HP　http://hokkaido.env.go.jp/

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

2015.03